

超次元番外編！嵐のス ピンオフTV

白銀の嵐Mk. 2

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

あのスピントフが帰って来た！

以前のアカウントでやっていた『嵐のスピントフ劇場』がパワーアップし、更なるカオス呼び寄せる！

キャラ崩壊・メタ発言・カオス、何でも来いのスピントフが今再び！

メテオ&カズマ「誰かあの暴走作者を止めろおおおおおおお!!」

絵美「地獄が帰って来ちゃった……!!」

ソル「慈悲を……慈悲おお……!!」

∴ スピンオフに出てくるキャラに一切の慈悲はありません♪ (黒笑)

目次

絶対に笑ってはいけない教祖24時！
《続・引き出し編》
185

みんなのLINEが酷いのは全部メテ
オ・ソルヒートって奴の仕業なんだ！

1

メリッ苦しみマス!?
27

絶対に笑ってはいけない教祖24時

絶対に笑ってはいけない教祖24時！

《序章》
58

絶対に笑ってはいけない教祖24時！

《バス編》
74

絶対に笑ってはいけない教祖24時！

《引き出し編》
130

みんなのLINEが酷いのは全部メテオ・ソルヒートって奴の仕業なんだ!

みんなのLINEが酷いのは全部メテオ・ソルヒートって奴の仕業なんだ!

グループ名：復活！嵐のねぶねぶ

ー『ねぶねぶてゅーぬ』さんが『嵐が如く』さん、『漆黑ジャーナル』さん、『えみ太郎』さん、『ソルっと』さんを招待しましたー

嵐が如く(メテオ)：おー、このLINEグループが復活したか

漆黑ジャーナル(カズマ)：良かった……前のLINEの時みてえにあの変なあだ名に変えられてなかったぜ……

嵐が如く：あの時LINE名を変えられてたお前の慌てようはウケたなwww

漆黒ジャーナル：あつ？（———#）

ソルつと（ソル）：ちよ、止しましょうよカズマさん、メテオ兄さんも！（>O<）

えみ太郎（絵美）：そーそー！前回のLINEの奴ではあたしとソル兄はいなかったんだから！

ねぶねぶてゆーぬ（ネプテユヌ）：そりや前回の時に二人はまだ本編に登場してなかったもんね！

嵐が如く：メタいぞネプテユヌ

ー『槍使いのサステイン』さん、『ピーマイ☆プラン』さん、『四女神ヤッファー！』（O^）／『さんがグループに参加しましたー

槍使いのサステイン（ノワール）：それで、今回はどうするのかしら？

ビーマイ☆ブラン（ブラン）：前回みたいなコンパの恐怖政治は勘弁願いたいんだけど
……（・・・）

四女神ヤツフー！＼（^o^）／（ベール）：でしたら今回はこれまでのスピノフを
振り替えてみるのはどうでしょうか？（^―^）

ねぶねぶてゆうぬ：あ、ノワール！ブラン！ベール！

嵐が如く………てか、なんだそのLINE名？

漆黒ジャーナル：と言うか俺達全員のLINE名が色々とおかしいぞ

えみ太郎：じゃあまずは何でみんなはこのLINE名にしたかを言ってみる？

嵐が如く：んじゃあ、まずは俺からか？俺は最近『○が如く』ってゲームにハマってこれにした

ねぶねぶてゆーぬ：この前私があげたゲームだよね？ハマったんだ：

嵐が如く：ああ、主人公の戦い方が昔の俺と似てたから

漆黒ジャーナル：……さりげなくトンデモ発言をしたような：

えみ太郎：無視するよ？じゃあお次はカズマ！

漆黒ジャーナル：あ？俺？……漆黒の騎士団って異名を持つ仮面ライダーに変身するジャーナリストだから

嵐が如く：安置だな

ねぶねぶてゆーぬ：安置だね

ソルつと：普通に安置ですネ

槍使いのサステイン：この上なく安置ね

ビーマイ☆ブラン：もうちよつと捻れなかったのかしら…

四女神ヤツフー！＼（＼〇〇）／：四女神オンラインでしたらただスベっただけの痛々しいプレイヤー名ですわ

えみ太郎：………つまんな

漆黒ジャーナル：……わーい、自殺志願者がこんなにもいっぱいいるー♪（＼〇〇＃）

ねぶねぶてゆーぬ：じゃあ次は私が行くよ？私ハねー、そりやみんなが知る主人公オブ主人公のネプテューヌ様であることがわかるように敢えてこんなLINE名にして

みたんだよ！（ドヤア！

嵐が如く：ネプテューヌらしいな

えみ太郎：ネプ姉らしいね♪

ソルつと：ネプ姉さんらしいや

槍使いのサステイン：こういう所が相変わらずなのよねネプテューヌは

ビーマイ☆ブラン：逆になんかホツとするわ…

四女神ヤツフー！＼（^o^）／：返って安心しますわ♪

漆黒ジャーナル：……なんで俺とネプテューヌにこんなにも差があるんだ
よおおおおおおおおおお!!

嵐が如く：え？……カズマだから？

漆黒ジャーナル：納得行かぬええええええええええええええええ!!

槍使いのサステイン：無視するわよ？次は私ね……今度出る”四女神オンライン”にて私は槍使いだから、以前私が主人公を務めていたゲームのOPと掛け合わせてこのLINE名にしたわ

ビーマイ☆ブラン：私も似たようなものね：私は去年出た私が主人公のゲームのOPと名前を合わせてこれにした：

！
四女神ヤツフー！＼（＾o＾）／∴”四女神オンライン”の発売と聞いて！（ドヤア

嵐が如く：案外理由を聞けばまともなLINE名ばかりじゃね？

ソルつと：そうですね？

漆黒ジャーナル：いやいやおかしいだろおおおおおおおおおお!?なんで俺のLINE名には文句ばかりで他の奴らのLINE名にはツツコミいれねえんだよおおおおおおおお!!俺と他の奴らの扱iiiiiiiiiiiiiiiiiiii!!

嵐が如く：やかましいぞ屑マ

漆黒ジャーナル：やかましいわ天パ!久々にそんな不名誉なあだ名で呼ばれたわ!

四女神ヤツフー!＼(^ o ^) / :それでは、早速これまでのスピノフを振り替えて:
て:

漆黒ジャーナル：待て待て待て待て待てボール様!

四女神ヤツフー!＼(^ o ^) / :なんですの?

漆黒ジャーナル：まだあの二人のを聞いてねえだろ!

ねぶねぶてゆーぬ…あの二人って？

漆黒ジャーナル：そこで我関せずにしてる二人だよ！

えみ太郎……………

ソルつと……………

嵐が如く……………カズマお前…

ビーマイ☆ブラン……………ちよつと面貸せや…

漆黒ジャーナル……………え？

槍使いのサステイン：貴方は触れてはいけない事に触れてしまったんだわ…

漆黒ジャーナル：え、ちよ……何が？

四女神ヤツフー！＼（＾o＾）／：よろしい、戦争ですわ

漆黒ジャーナル：なんで!?

ねぶねぶてゆーぬ：あの二人は今、泣いてるんだよ!!

漆黒ジャーナル：だからなんで!?

えみ太郎：……ひつぐ、ぐす……ひどいよお……

ソルつと：なんで……なんでそんな酷い事が出来るんですか貴方は!!

漆黒ジャーナル：え、いや……

嵐が如く：カズマ……腹あ括れ

ビーマイ☆ブラン……ぶっ潰すだけで終わると思つてんじやねえぞ!

漆黒ジャーナル：いやいやいや待つて待つて!?

ー『絶対仕置き人イルハート』さんが参加しましたー

絶対仕置き人イルハート：覚悟出来てんだろうな屑マ

漆黒ジャーナル：え!?!ちよ、コンパちゃん!?!そのドデカイ注射器はなn…

ー『漆黒ジャーナル』さんと『絶対仕置き人イルハート』さんが退会しましたー

嵐が如く……俺の妹と弟を泣かせた罪だ

ビーマイ☆ブラン：恨むなよ、屑マ

ー『指輪の魔法使い』さんと『世界の終焉者』さんと『紫を股がった女』さんが参加しましたー

指輪の魔法使い：お、遅れました！

世界の終焉者：ま、まさかNギアの充電を忘れてたなんて……！

紫を股がった女：ありや、これは出遅れたかしら……

嵐が如く：なんか変なの来た!?

ソルつと：え!?!だ、誰!?

指輪の魔法使い：え? わからないですかメテオさん? お兄ちゃん?

世界の終焉者：ネプギア、あたし達はちよつと捻り過ぎたからみんなには分かりにくいかもしれないわ

紫を股がった女：あたしは別にこのまま誰だかわかってもらえなくても構わないけど

：

ねぷねぷてゅーぬ……………ひよつとしてネプギアとユニちゃんとあいちゃん?

指輪の魔法使い（ネプギア）：うん、そうだよお姉ちゃん!

世界の終焉者（ユニ）：流石に今の会話でわかりましたか?

紫を股がった女（アイエフ）：あたしの事までわかったなんて……………流石ね、ねぷ子

ソルつと：今のでわかつたんだネプ姉さん……

嵐が如く：つか、なんだよお前らのLINE名……

指輪の魔法使い：私は今度出る四女神オンラインで魔法使いの職をやるので……

世界の終焉者：あたしも盗賊をやるから……

紫を股がった女：あたしは去年主人公を務めたゲームからよ？

嵐が如く：……アイエフはともかく、ネプギアとユニのは俺の兄さんと知り合いの先輩ライダーの異名とかを使ってんじゃねえか!? 後である人達に怒られるぞ!?

指輪の魔法使い：え？許可は貰いましたよ？

嵐が如く：……へ？

世界の終焉者：スツゴい気さくな人達で喜んでOKしてくれましたよ？

嵐が如く……マジで!?

指輪の魔法使い：マジか!

世界の終焉者：マジだ!!

紫を股がった女：SHOW TIME!!

槍使いのサステイン……スツゴい仲良しね貴方達……

ねぷねぷてゅーぬ……て言うかメテオのお兄さん達と仲良くなるネプギアとユニちやん……

ビーマイ☆ブラン……深く聞かない方がいいわネプテューヌ……後が怖いから……

四女神ヤツフー！＼（＾o＾）／……と、取り敢えず！これまでのスピノフを振り替えてみましょう！ね？そうしましょう！？

嵐が如く……：そうだな、じゃあ……まずはつて言つても振り替えるようなもんかこのスピノフつて？

四女神ヤツフー！＼（＾o＾）／……あ……（汗

ねぶねぶてゆーぬ……そもそも作者の気紛れで適当にやつてるもんだしね？

槍使いのサステイン……メタイわよネプテユーヌ

四女神ヤツフー！＼（＾o＾）／……

ビーマイ☆ブラン……やる意味あるのかしら？

四女神ヤツフー! \ (^ o ^) / : (滝汗)

指輪の魔法使い : シリーズって言うシリーズもないカオスな内容ばかりでしたし :

世界の終焉者 : これと言った特徴も何もありませんよ ?

四女神ヤツフー! \ (^ o ^) / : or z

紫を股がった女 :企画倒れ : ですね

えみ太郎 :ベル姉ダメダメじゃん

四女神ヤツフー! \ (^ o ^) / : ぐは! ? (; 。 ㄥ)

ソルつと : ベール様 :ダメ人間、いや駄女神なんですネ ?

四女神ヤツフー! \ (^ o ^) / : おうつふ! ? (一一 。 ㄥ)

嵐が如く：やめてやれお前ら！ボール姉さんのLIFEはもう0だ！

四女神ヤツフー！＼（^o^）／……もうオルフェノクでもドーパントでもファン
トムでもインバスでもバグスターでも何にでもなりたいですわ（・ω・）

嵐が如く：絶望するなああああああ!?絶望なんてするなボール姉さん!?

ー『WIZARD』さんが参加しましたー

WIZARD：絶望と聞いて！

ソルつと：Σ（。D。）

えみ太郎：なんか知らない人が来た!?

嵐が如く：おiiiiiiiiiiiiiiii!?!なんであんた来た晴人兄さああああああ

あん!?

WIZARD (操真 晴人) : 絶望と聞いて! (´・ω・´) 俺がみんなの最後の希望だからな!

嵐が如く : だからってここに来るか普通!?

指輪の魔法使い : あ、晴人さん! こんにちは♪

WIZARD : こんにちははネプギアちゃん! 絶望してないかい? (ハアハア…)

指輪の魔法使い : してないので大丈夫です♪

嵐が如く : ……あれ? おかしいな : 晴人兄さんってこんな変態キャラだったっけ?

WIZARD : キャラ崩壊上等のスピノフだから! (キリッ!)

嵐が如く：そんな無茶苦茶な!?

ー『DIEND』さんが参加しましたー

DIEND：お宝と聞いて！（キリツ！

嵐が如く：誰も言ってねえし！あんたもなんで来た海東さあああああああああ
ん!!?

DIEND（海東 大樹）：お宝が僕を呼んでる気がしたから！（キリツ！

嵐が如く：呼んでません帰ってください！

DIEND：冷たいな弟君……君と僕の仲だろ♪（ハア……ハア……

嵐が如く：……あ、あれれ? 海東さんってこんなホモキャラだったっけ? (…)

DIEND：キャラ崩壊上等のスピノフだから! (キリッ!)

嵐が如く：それ言えば何でも許されると思っただらあんた!。(。D。)

世界の終焉者：あ、海東さん

DIEND：やあユニちゃん、今日こそ君のお宝(意味深)を頂くよ!

世界の終焉者：や、ちよ、どこを触って……ん…/ /

嵐が如く：おiiiiiiiiiiii!!ここLINEの場!!こんな場所で堂々とセクハラ!
ラ!?

槍使いのサステイン：ちよつと貴方……

ソルつと：ちよつとお話があります……

DIEND……え？なんだい君達？え？何その顔……怖いや あ、ちよつと何をす
るんだ！やm……

ー『ソルつと』さんと『槍使いのサステイン』さんと『DIEND』さんが退会しま
したー

嵐が如く……

ねぶねぶてゆーぬ……

えみ太郎……

ビーマイ☆ブラン……

四女神ヤツフー! \ (^ o ^) / ……

紫を股がった女 ……

WIZARD: ねえネプギアちゃん、この指輪をはめてくれない? ねえ、ちよつとだ
けでもいいから!

指輪の魔法使い: え? あの ……これって婚約指輪…

ねぶねぶてゆうぬ: ちよつとお兄さんこつちで話そうねー (にこにこ)

四女神ヤツフー! \ (^ o ^) / . その指輪の事に関してじつつつくりとお話が (につ
こり)

紫を股がった女: あんたがネプギアと出会った事も全てね♪ (ホホエミ)

W I Z A R D : え、うわ、何s…

ー『ねぶねぶてゆうぬ』さんと『四女神ヤツフー!』(´o´)／『さんと『紫を股
がった女』さんと『W I Z A R D』さんが退会しましたー

嵐が如く: ……何これ?

ビーマイ☆ブラン: ……さあ?

えみ太郎: 一気に人がいなくなったんだけど…

ビーマイ☆ブラン: ……メテオ、貴方のお兄さん達って、みんなああなのかしら?

嵐が如く: いや、そんな事はない……そんな事はない、はずだ…

えみ太郎………さっきのを見て一気に自信無くしちゃってるよ?

嵐が如く………おかしい……俺の中の兄さん達のイメージが一気に崩れて行くぞ……

ー『ペロペロ紳士』さんが参加しましたー

ペロペロ紳士(トリック・ザ・ハード):お姉さん!我輩に幼女を………ロムちゃんトラムちゃんをください!

ビーマイ☆ブラン:テメエは何しに来たああああああああああ!!

嵐が如く:テメエは一生出てくるんじゃないやねええええええええええええええええ!!

ペロペロ紳士:んぐわああああああああ!!?

ー『嵐が如く』さんと『ビーマイ☆プラン』さんと『ペロペロ紳士』さんが退会しましたー

えみ太郎……………そして誰もいなくなっただって奴？

……………（勝手に）終われ！

メリ〜苦しみマス!?

メリ〜苦しみマス!?

クリスマス……それはイエス・キリストと呼ばれる神の誕生日……
人々の間では一つの年中行事として親しまれている季節……
一年に一度行われる盛大な行事……。

皆さんにとって、クリスマスとは一年に一度の何ですか？

因みに彼ら……メテオ達にとっては……。

何故冒頭がこんな事になったか……。

遡る事数時間前、プラネテューヌの街にて。

「今日は一年に一度のクリスマスですねメテオさん、カズマさん♪」

「ああ、そうだな……街のみんな、凄く賑やかになってる…微笑ましいもんだ」

「おう、見てるこつちも楽しくなってるもんだ」

クリスマスシーズンに入り、街中がそのシーズンに合わせて大賑わいになってる中、メテオとカズマ、イストワールもそれに合わせ、今日はクリスマスパーティーをしようと言う事でその買い出しに出掛け、その帰りに起きたのが事の始まりである。

「クリスマスと言えば……メテオさん、カズマさん」

「ん?」

「あんだい、イストワール様?」

何か企んでいるかのような笑みを見せるイストワールが両手に買い物袋を引っ提げて歩く二人に声を掛ける。

「皆さんの”クリスマスプレゼント”をご用意しませんといけませんね♪」

「クリスマスプレゼント……ああ、そう言えば忘れてたな、今日はプラネテューヌにノワール、ユニ、ブラン、ロムにラム、ベール姉さんが来るらしいからな……女神であるあいつらは微妙だが、女神候補生であるネプギアやユニ、ロムとラム、それに絵美にプレゼントを用意してやらないとな」

「一応ソルの坊っちゃんも対象に入るのかな？……取りあえず、用意しとくに越しちゃあいねえな」

その笑みに気付く事なく、まんまと彼女の“企み”に嵌まる事に気付いていない大人な二人はその事に失念していた事に気付き、うぐん……と頭を悩ませる。

「参ったな、今さら『プレゼントは何がいい？』って聞いてもすぐに用意出来るか怪しいな……」

「突拍子もない内容とかを出されてもそれこそ困るしな……」

「……ふっふっふっ……お二人とも、ご安心ください」

「ん？何がだイストワール？」

「そんな事があるうと、既にネプギアさん達にプレゼントをリサーチし、こちらの方で秘密裏にご用意させていただきました！」（ドヤア！）

「おお……流石イストワール様、準備が早い……！」

小さな体ながらも大きく胸を張るイストワールにメテオとカズマも感服の目線を送

り、それを見たイストワールはさらにえっへんと威張る。

「それに、ネプギアさん達だけではありませんよ？ネプテューヌさん達女神様、アイエフさん達の分まであるんですから！」

「あいつらの分も？……まあ、あいつらの喜ぶ姿が見れるならそれはそれでいいか……」

「だな、女神様達にも日頃の頑張りとしてご褒美をあげないとな？」

「既に皆さんには寝る前にどんなプレゼントが欲しいのかを紙に書いて枕元の横に置くようにつと伝えてあります！メテオさんとカズマさんには私が事前に用意しておいたプレゼントを夜中ひっそりと届けて欲しいのです！」

「……つまりは俺達に”サンタクロース”になれと？」

”サンタクロース”……それはクリスマスの夜、良い子の元にプレゼントを持って現れると言う”伝説の配達人”。

今回のクリスマス、メテオとカズマにはその”配達人”の役を行って欲しいと言う事なのである。

「……わかった、俺もあいつらには世話になってる、その恩返しと思えばサンタでも配

達人でもなつてやるさ」

「面白そうじゃねえか！みんなの可愛い寝顔を拝みながらプレゼントを渡せるなんて、極上この上ねえご褒美じゃねえか！」

「……カズマ……カメラの持ち込みは厳禁な？」

「……へーい……」

……と、呑気にこんな会話を交わすメテオとカズマの二人……

だがこの時二人は知らなかった……。

これが”惨劇”の序章になろうとは……。

| | | | | | | | | | |

クリスマスの夜。

季節の風物詩とも言える雪が降り注ぐ聖夜の中、プラネテューヌ教会の外の入り口前にて3つの影があった。

「メテオさん、カズマさん、パーティーは楽しめましたか？」

「……ああ……楽しめたって言えば楽しめたさ……」

「久々に年甲斐にもなくはしゃいでみんなに怒られちゃったくらいだよ……」

「それは良かったです♪」

その影とはメテオ、カズマ、イストワールの3人で、彼らはこれから教会内にいるみんなにクリスマスプレゼントを届けると言う任務を執行しようと言うのだが……何故かメテオとカズマのテンションがやたら低い。

パーティーをかなり楽しんだらしいのに、何か不満な事でもあったのだろうか？

その答えは今二人がしている”格好”にあった。

「……どうしたんですか？何か不満でも？」

「……いや、不満って言うかな……プレゼントを渡すのは構わない、その際にサンタの格好をする事もわかる……けど……なんでわざわざ”変身”する必要があるんだ？」

「……俺なんて、サンタじゃなくて”トナカイ”だし……」

そう、彼らが不満たらたらな理由は、『何故プレゼントを渡すだけなのにわざわざ”仮面ライダーに変身して”、なおかつその上にサンタやトナカイの格好をしなければならぬのか？』と言う事なのである。

「何故って……お二人とも、このゲームギョウ界にとって仮面ライダーとは女神様に

次ぐ偉大なる存在です、その偉大なる存在に変身する貴方達はサンタとして、皆さんにプレゼントを配るのですよ？……これはより良くゲームギョウ界の皆さんに仮面ライダーの存在をアピールする為のものなのです」

「……あのー…アピールも何も……プレゼントを渡す相手はみんな身内、それも女神…」

「…バレた時の精神ダメージが半端じゃないのは俺だけかなメテオ？」

それを最もらしい事を言ってる（つもりな）イストワールの言葉にメテオもといストームとカズマもといナイツだが、彼女は一方に聞く気もなく、そのまま喋り続ける。

「何より……メテオさん達に新フォームを授けたかったのですよ……メテオさんには”夢の配達人”、”仮面ライダーストーム・サンタフォーム”を……カズマさんには”夢の運び人”、”仮面ライダーナイツ・クリスマスフォーム”を」

「そんな一年に一度しか使えないフォームなんかいるか」

バツタを模した仮面、胸部と肩に輝くダイヤモンドの装甲と白いアンダースーツの上半身、紺色の下地に脛に連なる銀色のプレートをした下半身な姿の仮面ライダーストームに赤白の帽子、紅白の衣装で全身を包ませ、黒いブーツとチャームポイントに付けられた白い髭の格好をさせた……”仮面ライダーストーム・サンタフォーム”。

漆黒の角が生えたコウモリを思わせる仮面に紅いアンダースーツに黒い装甲を備え

た上半身、そしてローブが巻かれた黒い下地をした下半身がデフォルトの姿である仮面ライダーナイツに全身を、あのサンタクローズのお供としてやって来るトナカイの格好をさせた……”仮面ライダーナイツ・クリスマスフォーム”。

これが、イストワールが二人に授けた新たな姿である。

……どう見ても戦い等には不向きな……それよかダサイとも言えなくような酷い姿である。

「……………これ、子供が見たら泣くよな？夢が壊れるよな？」

「……………言うなよカズマ……悲しくなってくる」

「では、衣装の方が整い、皆さんも寝た頃だと思うのでお二人とも……お願いします」
♪

「……………へーい……」

準備が整ったと言い、両手を合わせて小首を傾げてお願いすると言う……イストワールファンが見れば発狂するようなどても可愛らしい仕草をして彼女はお願いするもの、お願いされたストームとナイツの二人は物凄く……もの、スツゴク……不満な様子で渋々と教会の中へと入って行くのであった……。

ネプギアの部屋

まず最初にストームとナイトが選んだターゲットはこの部屋で寝ているネプギアと、パーティーで泊まりに来たユニの二人。

理由としては特に深い理由はなく、単に比較的にやり易そうだと思ったかららしい……。

「……ちゃんと寝てるな」

「おほ♪ネプギアちゃんとユニちゃんの寝顔♪」

「……変な事するなよカズマ?」

ゆつくりと、忍び足でヒソヒソと声を抑えて話すストームとナイト。

そんな中、ネプギアとユニの可愛らしい寝顔に興奮する変態トナカイ……もといナイトに酷く冷たい雰囲気纏って睨み付けるシスコンサンタ……もといストーム。

何とか二人の元まで辿り着き、早速プレゼント内容が書かれた紙を確認するべくストームはネプギアの、ナイトはユニの枕元を覗く。

「お？あつたあつた、えくと……ユニちゃんのは……」

ユニのプレゼント内容が書かれた紙を発見したナイツはその紙を手に取り、内容を認める。

『恋愛に関して学びたい』

（おお……最近誰かに恋でもしてるのかなユニちゃんは？）

ユニがまさか恋愛に関して知りたいと言うお願いにナイツは思わず感心の声を洩らす。

（んで、イストワール様が用意してくれたプレゼントの奴は……お？これか？）

ここに来る前、事前にイストワールから渡されたプレゼント袋を漁り、それらしき物を見つけたナイツはそれをユニの枕元に置いておく。

（さて、メテオの方はどうか……え？）

ユニの方を終え、ナイツはネプギアの方を担当するストームの方に目を向けて言葉を失った。

「……………っ……………っ……………！」

何故かストームはネプギアが書いたであろう紙を片手にその場で片膝を着き、（仮

面をしてるが) 目頭を抑え、声を押し殺しながら泣いていないか。

一体どうしたのか…気になったナイツはストームの方へ駆け寄り、その紙の内容を覗いた。

『メテオさん、カズマさん、絵美ちゃんにお兄ちゃん、お姉ちゃんと言った、大切な人達との思い出』

(……………)

……何これ？なんだこれ？

思い出？ Why？そんなもの一体どうやってプレゼントしろと？

と言うかこの子はプレゼントと言う物を知らないのだろうか？

プレゼントなんだから、なんかこう…物理的な物を要求して欲しかった…。

(んなもんどやってプレゼントしろって言うんだよ!!)

あまりにもハードな要求に頭を悩ませるナイツ。

その隣で目頭を抑え、声を押し殺して泣くストームはこの内容を見て恐らく悲しくなってきたんだろう…。

……現にナイツも作者の私も目頭が熱くなってきた。

(と、取りあえずプレゼント！イストワール様が用意したプレゼントは!?)

このままじゃ二人揃って朝まで泣き崩れそうなのでナイツは思考を切り替え、イストワールが用意したプレゼント袋を漁った。

(……うん、これだよな…絶対にこれだよね……イストワール様スゲー…)

まさかこれまでも予知していたのか、奇遇にもそれらしき物を見つけたナイツはそれをネプギアの枕元に置く。

「……うん、何とかネプギアちゃんとユニちゃんのプレゼントは完了したな…ほらメテオ、次行くぞ次」

「……え？あ、ああ……」

初っぱなから一悶着あったものの、何とかネプギアとユニのプレゼント配りを終え、

ストームとナイツは次の部屋へと行く。

| | | | | | | | | | | | | |

絵美の部屋

次にやって来たのは絵美、そして泊りに来たロムとラムが寝ているこの部屋。

取り敢えず妹組は終わらそうと言うナイツの意見にストームも賛同した事でこの部屋を選んだのが理由で現在、二人は既に彼女達の元まで辿り着いていた。

「それじゃあ俺は絵美にプレゼントを渡す、カズマはロムとラムを頼むぜ」

「あいよ、メテオ……また泣くなよ?」

「……流石にネプギアのあれは予想外だ」

先程の出来事を弄ってくるナイツだが、流石に初っぱなどは言え、あんなプレゼント要求されたら誰だって困る。

溜息を溢しつつ、またそんな事がない事を祈りつつ、ストームは絵美のプレゼント要求が書かれた紙を手に取り、確認する。

『新しいカチューシャ』

(……絵美のはまともか……よかった……)

流星は俺の妹か……と内心ホッと胸を撫で下ろすストームだが…。

『…と、大好きなみんなの思い出♪』

(……と思つてたらとんだ罨だったよチキシヨウ!!)

大事か！そんなに思い出が大事か！……大事だよね！思い出!!

と云うかプレゼントなんだから物を頼もうよ物を！その願いをもつと別の方向へ向
けようぜ!!

(ネプギアといい、絵美といい……サンタへお願いする要求が高くないか?)

思わずそれを口に出しそうになる気持ちを抑え、ストームはプレゼント袋を漁る。

(……あつたよ……イストワールは予知能力者か何かか?)

不思議な事に、絵美の要求に合う物を2つ見つけたストームはそれを絵美の枕元に置

く。

「…つう…！」

「……………？おい、どうしたカズマ？」

そこにロムとラムのプレゼントを届け終えたであろうナイトが痛そうに顔を抑えてやってくる。

「いや…ラムちゃんがさ…寝相悪いのなんの…プレゼントを置いた瞬間に俺の顔を勢いよく殴って来てよ…」

「……………そいつは不幸だな」

「お前の不幸体質が俺にも移って来たかこいつは……………」

「そんなバカな……………次行こうぜ」

軽口を叩くナイトを他所に、ストーム達は次のターゲットへと移る為に部屋を後にした。

┆
┆
┆
┆
┆
┆
┆
┆
┆
┆

ソルの部屋

今度はソルが一人で寝る部屋へとやって来た二人。

理由としては一人だから比較的にやりやすい筈と言う何とも安易な理由だそう。

「この部屋はソル一人だから俺が行く……カズマは万が一誰か来たときの監視として頼む」

「了解、さっさと済ませてくれよ?」

今度は一人と言う事でナイツを部屋の入り口に待機させ、ストームが単独でプレゼントを渡しに寝ているソルの元へ忍び足で歩み寄る。

(さてさて、ソルは一体どんなプレゼントを要求してるんだ?)

無事に何事もなくソルの元に辿り着いたストームは直ぐ様ソルの枕元にある紙を手に取り、内容を確認する。

『絶対最強の武器』

(……………そんなの俺だって欲しいよ……)

あれかな?この子達はサンタの事が嫌いなのかな?何か恨みでもあるのかな?だからこんなにも変に難易度が高い要求をするのかな?

もうここまで来ると訳のわからない要求に涙も出てこない。

思わずストームは意気消沈をしてしまう。

(……ええいままよ！ソルへのプレゼントはどうなっている!?!)

最早ヤケクソとなったストームは乱暴にプレゼント袋を漁り、それらしき物を手に取ってそれをソルの枕元に置いた。

「よし！次だ次！次はネプテューヌ達だ！」

半ば自棄なストームはそう意気込んで部屋を抜け、入り口に待機するナイツと合流するのであった。

| | | | | | | | | |

プラネテューヌ教会の廊下

「……後はネプテューヌ、ノワール、ブラン、パール姉さん、プルルートの女神組とアイエフ、コンパだけだな」

「……少なくともあいつらの要求はまともな奴でありますように……」

トボトボと重たい足取りで女神達の部屋がある場所へと向かうべく廊下を歩くストームとナイツの二人。

妹弟組の謎の要求によって既に疲労困憊状態になっているものの、頼まれた以上は最後までやり遂げようと言う意地で何とか保っている。

「よーし……次の曲がり角であいつらの部y…」

「きゃつ!？」

「…だ!？」

フラフラになりながらも、もうすぐ目的地と言う所でストームが誰かとぶつかり、その勢いで後ろへと尻餅をついてしまう。

「いつつ……」

「いったく……もう、暗いんだからしつかり前を見てなさ……い……よ……う？」

「……………あつ」

勢いよく尻餅を着き、痛そうにストームが尻を擦っていると、ぶつかった向こうは文句たらたら言いながら何か言おうとするが、突然言葉を失っていた。

その事にある事に気付いたナイツは頭の中でこうイメージ図が出来上がった。

人と出会った↓自分達の姿（サンタとトナカイの格好をした仮面ライダー⇨変人）↓

もつと言えはぶつかった相手は…？

「……アイエフ？」

「……あ……あ……な……な……!!？」

「……やべえぞメテオ…!!?逃げるぞ!!」

ストームがぶつかった相手…アイエフに気付くストームと、唇を震わせ、ワナワナと自分達を指差すアイエフを見たナイツは大急ぎにストームに呼び掛け、走り出す！

「へ…変態よー…!!みんな、ここに変態がいるわよー…!!」

それから数秒遅れて、アイエフの叫びが教会内に響き渡った。

| | | | | | | |

それから冒頭に戻る。

「待ちなさいこの変態いいいいいいいい!!」

「こんな夜中に襲おうとはいい度胸してんじやねえかああああああああああ!!」

「捕まえてじっくりたつぷりと、色々吐かせてもらいますわよおおおおおとおおお!!」

「ひいいいいいいいいいい!!」

アイエフの叫びによって起きたノワール、ブラン、ペールは女神化し、それぞれの武器を構えて追い掛けてくる。

それはもう……とてもとても素晴らしい程なまでに恐ろしい形相を浮かべて。

その鬼気迫る彼女達の姿に戦慄を感じたストームとナイツは全速力で逃げる。

「逃がさないよ変態!! 追跡! 撲滅! いずれもマツハで捕まえちゃうんだから!!」

その中には変身した絵美こと仮面ライダーマツハと、女神化したプルルートことアイリスハートの姿もあり、特にアイリスハートは物凄くご立腹な様子の笑みを浮かべている。

「本当、いけない子達よねえ、人が気持ちよ〜く寝てた時に邪魔をするなんて……捕まえたら……」

”去勢”……しちやおうかしらねえええええええええええ!!”

「いい、い……嫌だああああああああああああああああああ!!”

アイリスハートの言う”去勢”……それは男としては致死……確実に死ぬと言つても過言ではない程に恐ろしい行為。

ストームとナイツは仮面の上からでもハッキリとわかるくらいに涙を浮かべ、走る速度をさらにも上げる。

《シグナルコウカン!カクサーン!》

「逃がす……かあ!!」

「手伝うよ絵美ちゃん! M. P. B. L!!」

「あたしも! X. M. B!!」

すると後ろからマツハの拡散光弾と、女神化したネプギアとユニ……パープルシスターとブラックシスターのW砲撃が飛んできて、二人は大慌てに避ける。

「おおおおおおおおお!?嘘だろおおおおおおおおおお!?」

「でええええええええええ!?マジかあの子達!?ここ教会内だよ!?室内だよ!?撃つかよ普

通!?”

そこまでして自分達を捕まえたのか、それとも単に必死なのか。

いずれにせよ明らかにこの狭い室内にて撃つものではない拡散光弾や砲撃を撃つ彼女達に仮面の下で驚愕の表情を浮かべるストームとナイツ。

……因みにこの時点でプラネテューヌの教会は”ボドボド”（↑誤字あらず）である。

「あらあゝ?ならあたしも続いちやおうかしらあゝ!!」

「……………え?!」

そんな後ろからアイリスハートの声が聞こえ、振り向くとそこには……………それはもう、素晴らしい笑顔で雷を溜め込み、今にも放たん勢いの状態である”女神様”の姿があった。

「……………いい悲鳴を聞かせなさい!!」

巨大な雷の塊を蹴り飛ばすアイリスハートの必殺技”サンダーブレードキック”

エグゼクティブ

が、逃げ回るストームとナイツに迫った。

それにより、プラネテューヌ教会の大半が吹き飛んだのも追加して……。

| | | | | | | | | |

教会から少し離れた自然公園……。

降り頻る雪の上にてストームはそこで目覚める。

「……………」

ムクリと立ち上がり、体に積もった雪を叩き落とし、変身を解き、ストームから元の姿に戻ったメテオは近くのベンチに歩み、その上に積もった雪を払ってそこに座る。

「……………散々な目にあつた……」

イストワールから頼まれたプレゼント配り……ネプギア、絵美、ソルの謎の要求にアイエフとぶつかってから全員に追い掛けられ、マツハから拡散光弾、パープルシスターとブラックスターから砲撃を撃たれ、最終的にはアイリスハートが蹴り飛ばした雷の直撃を受けてこの自然公園にまで吹き飛ばされると言う不幸体験をしたメテオはウンザ

りしていた。

「……もう、プレゼント配りなんてやらねえ…。」

そんな気持ちになったメテオはパーカーの懐から煙草を取りだして一本口に加え、自身の手から火を出し、それで煙草に火を着けてゆつくりと吸い込む。

「……………クリスマスが嫌いになりそうだ」

吸い込んだ主流煙を大きく吐き出し、煙を吹かしながら天を仰いだ。

「何で嫌いになりそうなの？」

「何でって……………そりゃあ頼みとは言え、プレゼント配りをやらされた結果、仲間から変態呼ばわりされて追い掛け回され、砲撃とかを撃たれ、最後は雷を飛ばされてこんな所まで吹き飛ばされて死にかけてたんだぞ？ 嫌いにな…。」

嫌いになる……………と言いつけた時にメテオはそこで言葉を止めた。

「……………俺は今、誰と喋ってるんだ？」

あまりにも自然に入って来たので普通に喋ってしまったが、今ここにいるのは自分だけの筈と思っていたメテオはそれに疑問に思い、その声が聞こえた方向に顔を向けると…。

「……………あれメテオ達だったんだね」

「……………ネプテューヌ…。」

そこにはこちらに苦笑する紫の女神…ネプテューヌの姿があった。

彼女はそのままメテオの隣に座り、降り頻る雪を見つめる。

「あいちゃんが騒いで何事かと思つて出てきた時に見た後ろ姿を見たことがあるつて思つて追い掛けなかつたけど…正解だったね」

「……気付いていたのか」

「うん、それで二人が飛ばされた方向を追い掛けてね、こうしてメテオに会えたんだ」
パタパタと足を浮かせてぶらつかせるネプテューヌの言葉にガックシとメテオは項垂れる。

「……気付いてたなら止めてくれよ…。」

「……だから……んん！」

「……ん？」

突然自身の前に手を差し出すネプテューヌにメテオはどういう事なのかわからず、その手をじつと見つめる。

「……………綺麗な手だな」

「ねぷつ!?ち、違うよ！察しが悪いな〜……………プレゼント」

「え？」

「だーかーらー……………プレゼント、ちようだい♪」

「……………ああ……………ああ…」

そう言われてメテオはプレゼントを出そうとするが、ある事に気付いた。

……………プレゼント、プルルートにぶっ飛ばされた時にどっか行っちゃった…。

そう、あの時アイリスハートの放った雷を受けて吹き飛ばされた際にメテオはカズマと離れ離れになっただけでなく、イストワールから渡されたプレゼント袋も一緒に手離してしまい、何処かへ行っちゃったのだ。

それに気付कि、どうしようかと焦るメテオは何かないかとポケットやパーカーの懐を探ると…。

(……………あ、あつた…)

パーカーの懐から何かを見つけたメテオ。

その何かは梱包された小さな箱で、彼はそれをネプテューヌに見せる。

「……………これは？」

「……………本来、お前にプレゼントするべき奴はどっかに行っちゃったが……………これは俺個人的にお前に向けて買ったプレゼントだ…開けてくれ」

その箱を渡されたネプテューヌは言われた通りにその梱包を解き、箱を開けて中身を見て目を見開いた。

「め、メテオ……………これ……………!」

「……お前に似合うといいが……取りあえず、日頃の感謝つて所で買ったんだ」

目を潤わせ、口元を手で隠して自身を見つめてくるネプテューヌの目線にメテオは照れくさそうに頬を赤らめ、目を逸らす。

「……………これ、”ブルースター”つてお花だよね？」

「……ああ、何気なく立ち寄った花飾り屋でこいつを見つけてさ……お前が似合いそうな奴を買ってみたんだ」

メテオから渡された箱に入っていた：“ブルースターの花飾り”……ネプテューヌは目に涙を浮かべながらも嬉しそうに微笑んだ。

「……ありがとう……これ、着けていい……？」

「あ、ああ、その為に買ったんだから……」

突然涙を浮かべるネプテューヌに困惑しつつも、彼女の言葉にメテオは頷いた。メテオから了承をエテ、ネプテューヌはそのブルースターの花飾りを着ける。

「……………えへ……どう、かな？似合うかな？」

「……………」

「……………メテオ？」

着け終え、その花飾りをお披露目するネプテューヌにメテオは何も言わずに顔を背け、彼女を一切見ようとしなない。

「……ひよつとして…似合わなかった？」

「……………いや……………」

「……………似合い過ぎてまともに顔が見れない…」

「……………ねぶう!？」

「あまりもの不意に言われたメテオの爆弾発言にネプテューヌはこれまでにないほど顔を真っ赤にする。

「に、似合い過ぎるって…お、大袈裟だよお……………」

「し、仕方ねえだろ！本当に似合い過ぎてどう反応すればいいのかわかんねえんだからよ……………」

「……………ありがとう、メテオ」

「あ？ああ!？」

まともに彼女を直視出来ないメテオは突然のお礼の言葉に変に上ずった声を上げてしまった。

「……これ、大切にするね」

「あ、ああ、好きにしろよ……気に入らなくなったら捨てればいいし……」

「……捨てないよ、メテオからくれたプレゼントなんだもん……」

「そ、そうかよ……」

「……ねえ、メテオ……ブルースターの”花言葉”って知ってる？」

「い、いや……俺、そういうの疎いから……」

「……じゃあ教えるよ？ブルースターの花言葉はね……」

ネプテューヌはそこで一旦言葉を止め、ゆっくりと深呼吸をした。

「……『幸福の愛』と『信じ合う心』、だよ！」

く
終
わ
り
く

絶対に笑ってはいけない教祖24時

絶対に笑ってはいけない教祖24時！ 《序章》

絶対に笑ってはいけない教祖24時 《バス編》

メテオの世界のゲームギョウ界：そのプラネテューヌの街から離れた自然公園……。そこにとある人物達が集められる事になった……。

メテオ「……なあ、」 宗谷[？]」

宗谷（白宇宙）「……なんだよメテオ……」

メテオ「俺達、まだ本編と一緒に戦ってる最中だよな？」

宗谷「……そうだな」

メテオ「なの……何でこんな事やってんだ？馬鹿なの？死ぬのあいつ？」

巧（不知火神我）「おいおい、落ち着けよメテオ……なんか珍しく荒ぶってるぞ？」

メテオ「……キャラ崩壊上等のスピノフだから多目に見てくれ」

巧「メタいな!」

…何やら作者である私の悪口を言いながら荒ぶってるマイ主人公「メテオ」と、過去に彼と共に戦った仲間…天条宗谷」と新田 巧「がこの現状に困惑しつつも荒ぶるメテオを嗜める。

王花（ライドライダー）「…えっと…初めまして、鳴神王花って言います」

時雨（仮面レックス）「…僕は雨宮時雨…よろしくね?」

エリナ（S・TOM）「…エリナよ…よろしく」

士道（天音／IA）「…よそよそしい感じだな、ここ…」

そことは別の所では、私ソルヒートと初コラボした者同士である…「鳴神王花」、
 「雨宮時雨」、
 「エリナ」、
 「五河士道」が気まずそうな感じでお互いに自己紹介をしていた。

『オーイ、お前ら〜集まったか?』

メテオ「あ”？ごら作者！テメエ馬鹿か！いや、馬鹿だったな！新年早々こんな馬鹿げた企画を考えやがってええええええええええええ!!何が目的だあ?!何をするつもりなんだ!!ちと表出ろやワレド腐れガキあああああああ!!」

宗谷&巧「お、落ち着けええええええええええええ!!」

時雨「…何この初っぱなからのカオス」

王花「さ、さあ……?」

全員集まったのを確認した私ソルヒートが直々に彼らの前に姿を出すと、メテオは激しく荒ぶった様子で突っ掛かって来るが、宗谷と巧が必死になって取り抑える。

その様子を時雨は真顔で隣にいる王花にたずねるが、王花も王花で何が何やらさっぱりの様子である。

『おーおー、荒ぶってるなマイ主人公よ?昔の口調に戻ってるぞよ? (・ω・)』

メテオ「誰のせいだと思ってるんだゴラアアアアアア!!目ん玉抉り取って脳みそぶちまけたるか!!」

宗谷「STOP!?!殺害STOP!?!」

巧「こんなに荒ぶるメテオ見たことないんだけど!?!」

エリナ「……それでソルヒートさん？」

士道「俺達をこんな所に呼んで何をするつもりなんだ？」

『おお！よくぞ聞いてくれたエリナちゃん、士道くんよ！そのバカ主人公とは違つて冷静だね！関心関心♪（ハハハ）』

メテオ「……………（ハハハ）（ピキピキピキピキピキピキピキピキピキピキピキピキピキピキピキピキピキ…）
キ…！」

巧「め、メテオ!?血管!?血管が!?!」

宗谷「笑顔なのに血管がとんでもなく浮いてるぞ!?!」

王花「あ、あの～…取り敢えず落ち着きましようメテオさん?ね?ね?」

『やれやれ…これじゃあ一行に話が進まないよ…（ハハハ）』

時雨「……あんたのせいでしょ?早く教えてよ」

『……時雨くんが辛辣…（ハハ）ま、まあ今回、君達を呼んだのは他でもない!

君達には今日から24時間、このゲームギョウ界における“教祖”と言う職業を学んで

来て欲しいのだよ!』

エリナ「教祖を?」

士道「しかも24時間って……丸1日か!」

『そう!君達は今日1日教祖になってもらう!拒否権はないぞ!(^ω^)』

メテオ「ぎけんなゴルアアアアアア!!ガラアアアアアア!!(ぎしやあああああ!!」

宗谷「ぎやあああああ!!メテオが怪物化したあああああ!!」

巧「あ、悪霊退散んんんん!!」

『……あそこで暴走しているマイ主人公とそれを取り抑えている”W無個性主人公”は放って置いて……』

宗谷&巧「……あ?”」(W無個性主人公(笑))

『それではまず君達には着替えてもらう!ちゃんと教祖らしい格好をしてもらわないといけないから』

王花「着替え……ですか?」

時雨「でも何処で?」

『ん?あつちの方にお着替えBOXあるからそこで着替えとか用意してあるよ!』

王花「……うわ、本当だ……」

士道「ご丁寧に一人一人のBOXに名前が書いてあるし……」

エリナ「……嫌な予感しかないわ……」

『それではみんな……』 3分 で着替えて来なさい (・ω・)』
全員『はぁ!? 時間短ツ!?』

くお着替え中く

『ふむ……そろそろ時間かな?』

メテオ「おい……作者……」

『ん? なんだいメテオ?』

メテオ「おかしいだろ……なんだよこの格好……!」

『なんだって……それが君の教祖としての格好だよ?』

メテオ「いや、絶対におかしいって……なんで……なんで!

ケイの格好なんだよおおおおお!!」

メテオの服装：ラステイション教祖の神宮寺ケイ

『お似合いだよメテオ……ぶぶつwww!』

メテオ「テメエ……後でぶつ殺す……!」

宗谷「おいごらソルヒートオオオオオオ!!」

メテオ「宗谷!?!」

宗谷「なんだこの格好!悪意でしかねえよこんなの!?!」

『いやいや、むしろ善意の塊だよ?なんせ……』

君の”最愛の人の格好”なんだからね♪』

宗谷「ふざけんなああああああ!!」

宗谷の服装：プラネテューヌ教祖のイストワール

メテオ「そ、宗谷おまwww!」

宗谷「笑ってんじやねえよメテオ!マジで嫌だよこんなの!?なんでいーすんの格好をしなきゃなんないの!」

『ん〜……愛する人の服だから? (・ω・)』

宗谷「納得いかねえええええ!!」

王花「納得いかないのはこつちもなんですけどおおおおお!!」

メテオ「ん?この声……確か王花だったか?」

王花「ちよつと!いつの時代ですかこれ!?なんで……」

俺は「新八」なんですかあああああああ!」

王花の服装：銀魂の新八(と言うなのメガネ掛け機)

王花↓メガネ掛け機「ちよつと地の文の()の中!って、俺の名前もいつの間にか変わってるうううううう!」

宗谷「取り敢えず落ち着けよ?……メガネ掛け機 W W W!」(震え声)

メテオ「…… W W W」(笑いを堪えている)

メガネ掛け機「それで呼ぶな!笑うな!元に戻せええええええええ!!」

時雨「……ねえ、ちよつといいかな?」

メガネ掛け機「……え?」

メテオ「確か……時雨だったか?どうした?」

時雨「みんな……僕の事”女の子”って思ってる?」

メテオ「ん?そりや見た目や声質的にも女にしか思えないからな…」

宗谷「……まさか…」

メテオ「宗谷?」

宗谷「時雨……ひよつとしてお前って…”男の娘”?」

時雨「……なんかニュアンスが違うように聞こえたけど…うん、僕は”男”だよ…」

メテオ&メガネ「……あ?…」

宗谷「……やっぱりか」

『おーい、そろそろ出てきてよ時雨くん? (・ω・)』

時雨「……嫌だよ……みんなから女の子って間違われるし……何より……

これ……露出おおいんですけどおおおおお!!」

時雨の服装：リーンボックス教祖の箱崎チカ

メテオ「……女だ」

メガネ掛け機「どう見ても女の子にしか見えませんね……」

時雨「男だよ!なんでよりもよってこんな露出が多い服なの!?もつと他になかったの!?!」

メガネ掛け機「……ドンマイ」

時雨「うるさいよメガネ掛け機!!」

メガネ掛け機「王花だよおおおおお!!てか、早く名前を元に戻せえええええええ!!」

エリナ「……ねえ、そろそろ出て来ていいかしら？」

『おろ？次はエリナちゃんだね？どうぞどうぞ♪』

エリナ「……はあ…何でこんな格好に…」

エリナの服装：ルウイー教祖の西沢ミナ

メテオ「無難」

宗谷「無難だな」

メガネ掛け機「無難ですね」

時雨「無難だね」

エリナ「……そんな奇抜な格好をしている貴方達に言われたくはないわよ…」

『さてさて、後は巧くんと士道くんだね……おい、二人とも〜！出ておいで〜!!』

巧&士道「……………」(シーン…)

『……あれ?着替えBOXから出てこないぞ?』

メテオ「おい巧、一体どうした?」

巧『……ここから出たくないんですけど…』(BOXの中から声が…

宗谷「どうした?何かあったのか?」

『早く出て来てくれないと困るんだけど…(・ω・)』

巧『絶対に嫌だ!!こんな格好見せたくないもん!!』

メテオ「……巧、開けるぞ」

巧『あ!ちよ、ま!?!』

巧の服装:プラネテューヌ女神候補生のネプギア

メテオ「……」

宗谷「……」

メテオ&宗谷「……………ないわ」

巧「だから出たくなかったんだよ…………orz」

『やれやれだね…………んじや、ラストは士道くんだね…………ん?』

士道『嫌だ!俺は出ねえぞ!絶対に出ねえからな!!』

メガネ掛け機「そんな事言われましても…………みんな待つてるんですよ!」

時雨「もうみんな出て来て公開処刑を受けてるんだから、諦めて出てきなよ?」

エリナ「全くもう…………開けるわよ?」

士道『あ!バカやめ!?!』

士道の服装:仮面ライダーアクセルの照井刑事の格好である上下赤スカジャン

メガネ掛け機「」(絶句)

時雨「」（絶句

エリナ「……」

メガネ&時雨&エリナ『何故にそのチョイス?』

士道「逆にこつちが聞きてえよ……orz」

『おい、みんな着替えたか?ほんじゃあこれからルールを説明するからな?』

『絶対に笑ってはいけない教祖24時』

・このゲームが始まった瞬間、何があっても”決して!”笑ってはいけない。
・笑ったその瞬間、厳しい”罰”を受けてもらう

『……以上やで(・ω・)』

全員『ルール短ツ!』

『ほな、これから教会に向かうから皆バスに乗ってや、因みにこのバスに乗った瞬間に笑ってはいけけないがスタートするからな？バスに乗ったらもう笑ったらアカンで〜♪
(3)』

メテオ「……遂に始まるんだな、鬼企画……」

宗谷「どうなる事やらだな……」

巧「不安でしかねえよ……」

メガネ掛け機「と言うか、俺の名前……ずっとこのままなんですかね……」(元名：鳴神
王花(笑))

時雨「……はあ……」

エリナ「……お先真つ暗ね」

士道「……笑わなきやいいんだろ、笑わなきや……」

かくして新米教祖となった一同は不安を抱えつつも、目的地であるプラネテューヌ教会に向かうためにバスに乗り込むのであった。

『絶対に笑ってはいけけない教祖24時』

…
S
T
A
R
T
…
…

絶対に笑ってはいけない教祖24時！ 《バス編》

絶対に笑ってはいけない教祖24時 《バス編》

遂に始まった『笑ってはいけない教祖24時』。

一同は目的地であるプラネテューヌ教会に向かうためにバスに乗り込んだ所である。

『お前ら全員乗ったな？』

メテオ「ああ、乗ったよ」（ケイコス

宗谷「いよいよか…」（いーすんコス

巧「どうなる事やら…」（ネプギアコス

王k…メガネ掛け機「…あの…：…いつまで俺の名前…メガネ掛け機なんですか？」（新
八コス

時雨「……下手したらこのゲームが終わるまでずっととか?」(チカコス)

エリナ「それは最悪ね……」(ミナコス)

士道「……」(照井コス)

『ほんじゃあ目的地に向かつて出発……の前にどうやらこの笑ってはいけないに参戦したいって申し出た奴がいてな? そいつもメンバーに加える』

メテオ「物好きだな……こんなろくでなし企画に混じりたいって言うそいつ……」

宗谷「……下手したら怖いもの知らず?」

時雨「……単に何も知らないお馬鹿さんだったりして ね?」

『よし、じゃあ入ってこい』

みコスチューム
ジント(超輪)「どーも初めまして、ジントって言うんだ、よろしく!」(海パンの)

メテオ「……………」

宗谷「……………」

巧「…………ぶっ！」（吹き出し

メガネ掛け機「ぶふお!？」（同じく

時雨「……………」

エリナ「……………」

士道「……………」

（デーン!）巧・王花、アウトー!

巧「え!？」

メガネ掛け機「はっ!」

『忘れたのか? バスに乗った時点でお前らは笑うの禁止なんだよ……よつて、”罰”を受けてもらう』

アイエフ(ソルヒート)「……」(ケツ叩き棒ステンバーイ!

コンパ(ソルヒート)「……」(ステンバーイ!

メテオ「アイエフ!? コンパ!」

『笑った奴は罰として、メーカーキャラ達によるケツ叩きの刑になる……やれ』

アイエフ「!」(スパーン!

コンパ「!」（スパーン！）

巧「ぶれいぶ?!」

メガネ掛け機「すないぶ?!」

『……このようになりたくなければ、決して笑ったりしないように……では、出発!』

—————

メテオ「うわあ……笑ったらアイエフ達にケツ叩かれるのかよ……嫌だわ……」

宗谷「笑わないように気を付けても…あの人（＝ソルヒート）の事だ、絶対に何か仕掛けて来るよ…」

巧「いててて…」

メガネ掛け機「コンパさんにケツ叩かれたけど…あの人意外と力強いよね…」

ジント「おいおい、大丈夫かお前ら？」

巧「誰のせいだと思ってるんだよ！」

宗谷「…にしてもさあ…スースーするんだけど」

メテオ「何が？」

宗谷「足が」

メテオ「足が？」

宗谷「スースー」

メテオ「…いーすんの足が？」

宗谷「…スースーって何言わせてんだよwww」

メテオ「www」

（ブアーン！）メテオ・宗谷、アウトー！

宗谷「メテオでめっ！笑っちまったwwwあ、ちょアイエ…ふう!!」(バシーン！)
メテオ「やつべ、やつちまったwwwあ、コンパ？出来れば優し…くう!!」(バシーン！)

メガネ掛け機「…何をやってるんですか貴方達は…」

時雨「…ねえ、そっちがスースーするなら僕はどのなの？スツゴくヒラヒラしてるんだけど…」(スカートばさばさ…)

士道「何やってんだよ時雨、はしたないぞ」

時雨「別にはしたたなくなんか…こんな格好をした僕に欲情とかするわけでもないし…」

メガネ掛け機「ぶっ！www」

巧「おいwww」

ジント「www」

(アデーン！) 巧・王花・ジント、アウトー！

巧「欲情しちゃったの? 欲情しちゃったの王花www…あでっ!」(バシーン!)
メガネ掛け機「いやだって、どう見ても時雨女の子wwwあだっ!」(バシーン!)
ジント「なんか俺も釣られて笑っちゃったwww…うごっ!」(バシーン!)

第一停留所到着

メテオ「え? まっすぐ目的地に行かぬえのこれ?」

宗谷「確か本家なら途中途中に停留所に止まっては笑いの刺客が現れるんだよな…」

巧「げっ、マジかよ…」

士道「何が来るのやらな…」

ジント「楽しみだー♪」

エリナ「…:…:そう思える貴方は幸せ者が能天気ね…」

『お? 誰か乗ってきたぞ? (・ω・)』

十香（天音／IA）「待つのだ折紙！」

折紙（天音／IA）「嫌よ！離しなさい！」

士道「と、十香と折紙？」

巧「なんだなんだ？なんか修羅場つてるぞ？」

折紙「離しなさいよ！私には叶えたい夢があるのよ！」

十香「その夢の意味がないから！こうしてお前を止めに来たのだ！」

折紙「何ですって!? 貴方には理解ができないでしょうね！」

十香「ああ、できない！理解したくもないな！お前の夢など、止めて当然だ！お前の夢は決して叶えてはならん！」

折紙「バカにしないで！私には…私には…！」

メテオ「相当修羅場つてるなこれ…」

メガネ掛け機「大丈夫なんですか？」

『まあ、黙って見とき（・ω・）』

折紙「私には…私には叶えたい夢が…作家になるって夢があるのよ!そう!」(スツ…)

↓女の子同士が抱き合っているイラスト(Ⅱ百合本)

折紙「…」百合「作家になる夢が!!」(大真面目な顔で)

メテオ&宗谷&メガネ&エリナ&土道『ぶふううう!! W W W』

(ニデーン!)メテオ・宗谷・王花・エリナ・土道

アウトー!

メテオ「そら止めるわwww…んぐっ!」(バシーン！)

宗谷「必死に叶えたい夢が百合作家ってwww……いだい!」(バシーン！)

メガネ掛け機「全力で止めるよそれwww…いぢっ!」(バシーン！)

エリナ「そんな夢は応援できないwww…ひんっ!」(バシーン！)

士道「折紙そんな趣味なかつただろwww…すたらあ!」(バシーン！)

十香「馬鹿者!!」

折紙「っ!」

十香「そんな夢を追いかけてどうするんだ…!これまでお前が頑張ってきた私を初めとする皆の裏切りじゃないのか…!」(涙を流して)

折紙「十香…」

巧「うんうん、そんな夢は止めるよな」

時雨「大方何処かの部活動で頑張ってきたんだろうね」

十香「お前は百合作家ではなく……私達みんなが築き上げ、お前に託して来た願い……夢があるじゃないか……!」(スツ……)

↓男同士がキスしてるイラスト(∥BL本)

十香「……BL作家」になると言う夢が!!」(バーン!)

全員『……ブツハツツツ!! W W W W W W W W』(盛大に吹き出し)

(デブーン!) 全員、アウトー!

メテオ「そつちかよ! w w w」(バシーン!)

宗谷「ブルータス、お前もか! w w w」(バシーン!)

巧「してやられた! w w w」(バシーン!)

メガネ掛け機「まさかの! w w w」(バシーン!)

時雨「予想外! w w w」(バシーン!)

エリナ「どつちもどつちでしょ! w w w」(バシーン!)

ジント「しかも無駄にドヤ顔だし! w w w」(バシーン!)

士道「お前らそんな趣味持ち合わせてねえだろ! w w w」(バシーン!)

折紙「……そうね……ごめんなさい、私が間違っていたわ……」

十香「いいんだ折紙……またやり直せばいいのだから……」

折紙「そうね……行きましょう、私達の……」

十香「……夢の到達点!」

十香&折紙 「東京ビッグサイト!!」

全員 『世界観ぶち壊し! w w w』

(ブアーン!) 全員、アウトー!

メテオ 「何でそんなのがここ(ゲームギョウ界)にあるんだよ w w w」(バシーン!)

宗谷 「ここゲームギョウ界だよな w w w」(バシーン!)

巧 「行くところ間違えてるから w w w」(バシーン!)

メガネ掛け機 「もう無茶苦茶 w w w」(バシーン!)

時雨 「むしろそこに行って何するの w w w」(バシーン!)

エリナ 「同人誌でも作るのかしら w w w」(バシーン!)

ジント 「BL?百合?結局どっち w w w」(バシーン!)

士道 「アホかお前ら w w w」(バシーン!)

『お前ら最初の刺客から笑いすぎやろ? (・ω・)』

メテオ「その刺客のインパクトがスゲーんだよ…」

宗谷「変なギャップを見せられたらな…」

士道「よくこんなのを引き受けたなあいつら…」

『やれやれ、その調子だと先が思いやられ…お? また誰か乗ってきた?』

花陽(ラブライブ!)「皆さんすみません!」(警察官コス

真姫(ラブライブ!)「その場から動かないでください!」(警察官コス

メテオ「おお!?!」

宗谷「か、かよちゃんと真姫姫!?!」

メガネ掛け機「す、スゲー! ム、sが来ちゃったよ!?!」

時雨「ほ、本物…そこに警察官の姿で!?!」

花陽「…先程、通り魔事件が発生しました」

真姫「目撃情報によれば犯人はバスに乗って逃げたらしいのです……ですから皆さんは決してその場から動かないようにしてください」

巧「おいおい、通り魔事件かよ…」

エリナ「物騒ね…」

真姫「……ここによ……この中に！犯人がいますと思われるます！！／／」（囁んで言い直した）その為少し顔を赤らめてる

ジント「……ツツツ！」（笑いを堪えて

士道「……くつwww」

宗谷「……！」（堪えてる

メガネ掛け機「ふぐ……！www」

（ブアーン！）王花・士道、アウトー！

メガネ掛け機「いだっ！」（スパーン！）

士道「嘯むのは反則だろwww…うだっ！」（スパーン！）

真姫「…なかなか名乗り上げたりしないわね…先輩！」

花陽「仕方ありません…現場を目撃したあの人を呼びましょう！」

花陽&真姫「（せーの…）目撃者さーん！」

凛（ラブライブ！）「…ラーメンの…匂いだにやあく…（《●》ω《●》）」（じゅるる

…

巧「」（絶句

エリナ「」(絶句)

ジント「」(絶句)

士道「」(絶句)

メテオ&宗谷&メガネ&時雨「」………(ブーーツ!!) w w w」

(ブアーン!) メテオ・宗谷・王花・時雨、アウトー!

メテオ「なにあれw w w」(スパーン!)

宗谷「凜ちゃんその目やめてw w w」(スパーン!)

メガネ掛け機「ラーメンの匂いw w w」(スパーン!)

時雨「スクールアイドルがする顔じゃないw w w」(スパーン!)

士道「お、おい…なんかあの子ヤバくねえか? ……あの目が」

巧「こわっ?!?なんか目がこわっ!」

宗谷「凜ちゃんやめて!?!これを見る君のファンが泣くよ!?!」

凜「……ラーメンの…匂いだにやあ〜…(《●》ω《●》)(じゆるる…)

花陽「凜ちや…目撃者さん!この中に犯人と思わしき人はいますか!?!何か特徴とか

凜「……ラーメンの…匂いだにやあ〜…(《●》ω《●》)(じゆるる…)

真姫「ラーメンの匂い…つまり犯人はラーメンの匂いを放ってる人物なんですね

凜「……ラーメンの…匂いだにやあ〜…(《●》ω《●》)(じゆるる…)

通り魔を目撃したと言う証人 凜はメンバーをジーつと見始める。

この中に犯人がいるというのか?

凜「……(《●》ω《●》)(じー…)

メテオ「……ツツ!」(笑いを堪えて)

凜「……ラーメンの…匂いだにや! (《○》ω《○》)(ギンツ!)

メテオ「……ツツツ! w w w」

(ニデーン!) メテオ、アウトー!

メテオ「目! 目! 凜の目が w w w …おごう!」(バシーン!)

凜「……(《○》ω《○》)」(じー…)

宗谷「そ、その目で俺を見るのかよ……ツツ!」(笑いを堪えてる)

凜「……ラーメンの…匂いにや! (《★》ω《★》)」(シヤキーン!)

宗谷「ぶほほお! w w w」

(ニデーン!) 宗谷、アウトー!

宗谷「目の形が変わるって何なの! w w w …え? ちよ、鉄拳ちゃん? 君はちよつと…

ダメだからあ!」(バシーン!)

凜「……(《★》ω《★》)」(じつ…)

巧「うっ……」(ドキッ…)

凜「……………ラーメンの匂い……………がするにや!」(《※》ω《※》)(バシヨーン!)

巧「……………ぶふふふふう!! w w w」

時雨「w w w」(釣られて笑った)

ジント「w w w」(同じく)

(ブアーン!) 巧・時雨・ジント、アウトー!

巧「もはや何あの目! w w w…ぎふっ!」(バシーン!)

時雨「どうやったら出来るの! w w w…おふう!」(バシーン!)

ジント「ついでにあの目になった時の効果音は一体何! w w w…えふお!」(バシーン

!

凜「以上にや!」(《※》ω《※》)

メテオ「あの目やめろよ…」

宗谷「凜ちゃん普通に戻してー…」

エリナ「もう女の子がする目じゃないわよ…」

メガネ掛け機「もうあれはそんなレベルじゃない気が…」

花陽「通り魔の犯人…ラーメンの匂いを放つ人が3人も…!?」(メテオ、宗谷、巧の3人を見て)

真姫「目撃者さん!これはどういう事!?!」

凜「……フツ、簡単な話にや…(《☆》ω《☆》)(キラリーン!」

時雨「さりげなくまた目を変えたし…」

宗谷「と言うか俺達犯人扱いされてるぞ?」

巧「俺ら何もしてねえし…」

凜「犯人は……3人もいたからにや!!(《◎》ω《◎》)(くわっ!」

花陽&真姫「な……なんだってー……!?!」(ズド

ドーーーーーン！↑超オーバーリアクション

メテオ&宗谷&メガネ&時雨 「「「ぶっツツ!! w w w w w w」」」

(ブアーン！) メテオ・宗谷・王花・時雨、アウトー！

メテオ「リアクション！w w w」(スパーン！)

宗谷「芸人顔負け！w w w」(スパーン！)

王花「真姫ちゃんのオーバーリアクション！w w w」(スパーン！)

時雨「これはズルい！w w w」(スパーン！)

まさかの凜ちゃんの登場から花陽ちゃんと真姫ちゃんのオーバーリアクションまでの流れに一同が苦しんでいる中……。

「ガアツテエムツ!!」

全員『ツ!?!』

突然の怒号と同時に誰かがバスの中に乗り込んで来る。

泊 進ノ介(仮面ライダードライブ)「何処のどいつだ! 通り魔殺人なんてやりやがった奴は!!」

まさかの仮面ライダーシリーズからドライブこと泊さんの登場!!

宗谷「えー!?!と、泊さん!?!」

巧「進ノ介さんも出てくるのかよ!?!」

時雨「ほ、本物!？」

メガネ掛け機「マジかよ……ドライブに生で会えちゃった……」

花陽「と、泊刑事!？」

真姫「お、お疲れさまです!」

泊「挨拶はいい!花陽、真姫!目撃者が見た通り魔の3人は誰だ!」

真姫「は、はい!この人達です!」(メテオ・宗谷・巧を指差して)

メテオ&宗谷&巧「「……………はっ!?!」」

泊「そうか……こいつらか!!剛!チェイス!」

メテオ「そ、そう言えば俺達に容疑掛けられてたんだった……!?!」

宗谷「剛さんにチェイスさんもいるのかよ……!?!」

巧「マジかよ……最初っからメンバーが豪華だろ……!?!」

容疑を掛けられてる3人が戸惑う中、泊刑事に呼ばれてバスに乗り込んで来たのは

…。

剛? 「呼ばれてじゃじゃじゃくん!! 進兄! 呼んだ?」 (と言うかまんま 絵美 (ソルヒート)) ”

詩島 剛……と言うよりかは” 剛の格好をした絵美” であつた。

全員 『……ブツツ!! w w w』

(アプーン!) 全員、アウトー!

メテオ 「絵美じゃねえかよ! w w w」 (スパーン!)

宗谷 「剛さんの格好をした絵美ちゃん w w w」 (バシーン!)

巧 「そりや同じマツハだけどさ w w w」 (スパーン!)

メガネ掛け機 「そう来たか w w w」 (スパーン!)

時雨 「本物だと思って期待しちやつた w w w」 (バチコーン!)

泊「絵m：剛！遅いぞ！何分何秒、地球が何回転してると思ってたんだ!!」

剛？↓絵美「ごめんってば進兄く…じやなかった、進兄さん！チエイスの奴が安全運転にうるさいからさく…」

泊「何？チエイスが？」

そこに新たに誰かがバスに乗り込んで来る。

チエイス？「交通安全を守るのが、人間のルールではないのか？」

それはチエイス（の格好をしたキリト（SAO））だった。

なお、服のサイズが合っていない為、だぼだぼなスタイルである。

メテオ「うくつwww」

宗谷「ぼふつwww」

時雨「ふふつwww」

(アブーン!) メテオ・宗谷・時雨、アウトー!

メテオ「似合わねえwww」(ベシーン!)

宗谷「体格と身長が合ってねえよwww」(バシーン!)

時雨「服がだぼだぼwww」(スパーン!)

泊「そうか…チエイズだから仕方ないな……」

絵美「でしょ?」

チエイズ?↓キリト「違うのか?」

泊「いや、別にいい……それよりもその3人!!」

泊刑事は通り魔の容疑に掛かっているメテオ、宗谷、巧の3人を睨む。

宗谷「あ、はい!」

泊「お前達を通り魔殺人の犯人か……!」

巧「いやいや違いますよ!」

絵美「とぼけんじやないわよ!既にこの人から目撃証言が出てるんですよ?しらばっ

くれでも無駄よ!!」

キリト「自身が犯した罪を、償うのが人間のルールではないのか！」（チェイスつぼく
メテオ「：w いや違うってマジで、ただその子にラーメンの匂いとかどうたら言わ
れただけで…」

凜「そうです刑事さん！この人達がやったのを凜は見ました！」（急に素で

ジント「急に普通の感じに戻ってるしwww」

メガネ&時雨&エリナ&士道「「wwwwww」」

※既に笑いましたが、このままお楽しみください

泊「まさに外道だなお前ら！自分が犯した罪をそうやって言い逃れしようとするとか
！」

絵美「信じられない！人とは思えないよ！」

キリト「もはやお前達は人間にあらず！」（チェイスつぼく

凜「まさに！」

泊&絵美&キリト&凜&花陽&真姫

『ゲスの極み!!』

花陽「このバスに逃げ込んで他の乗客の人達にも被害を及ぼそうとするその姿!」

真姫「人の命を何とも思わないかのように平然としたその態度はまさに!」

泊&絵美&キリト&凜&花陽&真姫

『ゲスの極み!!』

泊「そんな連中には!」

泊&絵美&キリト&凜&花陽&真姫

『ガ ア ツ テ エ ム ツ !!』

全員『……w w w w w w』

泊「そんなお前らには……!」(ベルトをセット!)

絵美「お仕置が必要だよ……!」(同じく

キリト「……」(棒立ち

メテオ「ちよ、ベルトを着けるとか……!?!」

宗谷「と言うかキリトw w w」

メガネ掛け機「変身出来ないからって棒立ちってw w w」

士道「居る意味だろw w w」

《Drive! type SPEED!》

《ジグナルバイク!ライダー!マツハ!》

泊↓ドライブ「ひとつ走り付き合えよ!!」

絵美↓マツハ「追跡、撲滅、いずれもマツハにしてやんよ!!」

変身完了したドライブとマツハ、そして棒立ちだったキリトがメテオ、宗谷、巧の3人を胸ぐら掴んで無理矢理立たせる!

メテオ「ちよちよちよ、おまつ!」

ドライブ「お前ら通り魔もとい、”ラーメン大好き野郎”どもには……!」(メテオの胸ぐら掴み)

宗谷「え?え?え!」

マツハ「お仕置きの『ビンタ』を食らわせてやる!」(宗谷の胸ぐら掴み)

巧「え、ちよ、なにそれ!」

キリト「覚悟しろ……!」(巧の胸ぐら掴み)

そしてドライブ達3人がそれぞれ右手を思いっきり振りかぶる!

ドライブ「ラーメン……臭えんだよ!」(バチーン!!)

メテオ「ごほう!」

マツハ「どんだけラーメン……好きなのよ!!」(バチーン!!)

宗谷「ふぼっ!」

キリト「たまにはラーメン……控えろ!!」(バチーン!!)

巧「げふんっ!」

メガネ&時雨&エリナ&ジント&土道「「「「ぶふふつつ!! w w w w w w」」」」

見事に強烈なビンタを食らったメテオ、宗谷、巧の3人はバスの床に倒れ、それを見た他の五人は吹き出して笑う。

(アデーリン!) 全員、アウトー!

バシーン×8

花陽「お疲れさまです泊刑事!」

真姫「これで事件解決です!」

ドライブ↓泊「よし!お前から帰るぞ!褒美に俺が”ラーメン”を奢ってやる!」
凜「やったー!ラーメンにやー!」

マツハ↓絵美「進に…進兄さんの奢りだー!」

キリト「年上に奢って貰うのも、人間のルールだからな」(チエイスっぽく

こうして事件を解決した彼らはバスを降りて行った。

士道「オーイ、大丈夫かお前ら?」

メガネ掛け機「凄い音がなりましたけど…」

残された一同はビンタを食らった3人に声を掛ける。

メテオ「つて〜……首がもげるかと思った……」

宗谷「ライダーの状態で人にビンタつてやつちや駄目だろ……普通なら死んでるよ……」

巧「……俺は普通にビンタされたから何も言えねえよ……」

『よし、そろそろバスが動くからみんな席に着け〜（・ω・）』

最初の停留所の笑いの刺客を終え、バスは次の場所に向かって走り出す。

メテオ「……まだビンタされた所が痛む……」（ヒリヒリ……）

宗谷「大丈夫これ？歯が抜けてたりしない？」

巧「大丈夫かお前ら？ライダーにビンタされるつて、普通は無いからな……」
メガネ掛け機「しかも理由が凄く不憫でしたよね……」

士道「ラーメンの臭い的な意味での通り魔とか……どんな通り魔だよ……」

時雨「それを殺人とかって言つてたよね？……どうやったらラーメンの匂いで人が死ぬの？」

エリナ「……普通ならあり得ないよね」

ジント「どう考えても理不尽過ぎる……」

次の停留所に到着。

メテオ「うわ……また停留所かよ……」

ジント「次はどんなのが来るんだ……?」

笑いの刺客が乗車!

クロテューヌ(超輪)「……………」

ジント「あれ?クロテューヌじゃねえか?」

メテオ「なんか凄い不機嫌な様子で来たぞ?」

アリファ(超輪)「待ってよ」ブラック!!」

ジント「今度はアリファ…」
メガネ掛け機「と言うかブラックって…」

クロテューヌ「……何？」

アリファ「本当にやめるの？会社？」

クロテューヌ「……うん」

アリファ「……何で？何でよ！一緒に頑張ろうって言ったじゃない！」
クロテューヌ「……気が変わった」

士道「……凄い不機嫌だな…」

アリファ「……もしかして、上司が原因？」

クロテューヌ「……うん」

アリファ「……やっぱり上司が原因なんだ…」

クロテューヌ「……」

アリファ「……ねえ、辞めるんだったら…最後にあれやってよ…」
クロテューヌ「……」

アリファ「あれやってくれたら、私は手を引く…」

クロテューヌ「……わかった」

アリファ「……………」(ガサゴソ…)

エリナ「……何か取り出す気ね…」

アリファ「私達……」鼻クワガタ会社”の最後の思い出を残そう!”(虫籠取り出して

全員『w w w w w w w w w w』

(ブザーン!) 全員、アウトー!

メテオ「鼻クワガタ会社ってなんだよw w w」(バシーン!)

宗谷「そんなの辞めたくなるに決まってるわw w w」(バシーン!)

巧「待つて待つて! 腹が痛いw w w」(バシーン!)

メガネ掛け機「嘘だろw w w」(バシーン!)

時雨「なにこの世界観w w w」(バシーン!)

エリナ「着いて行けないwww」(バシーン！)

ジント「訳わかんねえwww」(バシーン！)

士道「wwwwww」(バシーン！)

アリファ「ほら、今朝取り立てのコクワガタ！」

コクワガタ「……」(ヤツテヤンゾ！)

クロテューヌ「……結構大きいね」

メテオ「くつwww」

ジント「素が出てねえか？w」

アリファ「……行くよ？」

コクワガタ「……」(シザー！)

クロテューヌ(ザクッ!)……………ツツツツ!??!?!?
あああああ!?!ちよ、取って!?マジで取って!?!
ちよ、うわあああああああ

全員『……………!! w w w w w w』

(ブアーン!) 全員、アウトー!

ジント「クロテューヌおま、そんなキャラじゃねえだろ! w w w」(バシーン!)
他7名『w w w w w w w w w』(バシーン!)

クロテューヌ「あ” あ” あ” あ” あ” !! どっでおい!はやぐこれどれ!!」

アリファ「動かないでブラック!取れない取れない!!」

巧「軽く事故だろこれ w w w」

クロテューヌ「い　ぎ　い　い　い　い　…（スポット！）…っ！…ハア
…ハア…！！」

アリファ「…懐かしいね、これやるの」

クロテューヌ「は？」

アリファ「え？」

全員『ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ』

（~~ア~~アーン！）　全員、アウトー！

メテオ「あいつキレてねえか？ｗｗｗ」（バシーン！）

ジント「それだけ痛かったんだろｗｗｗ」（バシーン！）

他6名『ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ』（バシーン！）

アリファ「じゃあ、私は戻るわね…さよなら、ブラック…」

クロテューヌ「待って…」

アリファ「…ブラック？」

クロテューヌ「今ので目覚めたよ…私やつぱり…ハア…ハア…残る!／／／／

メテオ&ジント「wwwwwwww」

(ブグブグ!) メテオ・ジント、アウトー!

メテオ「目覚めたって、それは何の意味www」(バシーン!)

ジント「クロテューヌ声震えてるしwww涙目だしwww」(バシーン!)

こうして無事に会社に残ることを決めたクロテューヌはアリファと共にバスから降りて行った。

全員『…ハア…』(ぐったり…)

メテオ「ケツがイテエ…作者のご都合能力のせいで力を封印されてるから俺達、今普通の人間程度の状態なんだよな…」

ジント「それにしてもまさかクロテューヌが鼻クワガタをやるなんてな…」

メガネ掛け機「よく引き受けたな、あいつら…」

宗谷 「まだ最初の段階なのにもう限界だ……」

時雨 「気のせいかもしれないけど、なんか僕の衣装だけ服の生地が薄いから他のみんなよりも音が若干違う……」

エリナ 「早く帰りたい……」

士道 「全くだ……」

巧 「もう耐えきれぬ気がするねえ……」

『何言ってるんねんお前ら、まだまだ来るぞ？ (・ω・)』

メテオ 「ええ……」

時雨 「もういいよ……」

次の笑いの刺客登場!!

閃華 (ライドライダー) 「そうだよね……」

夕立 (仮面レックス) 「超ウケるっほい！」

ライラ (白宇宙) 「半端ない話じゃない！」

笑いの刺客(閃華・夕立・ライラ)の3人が乗車!

閃華「でね〜!その人がまたイケメンできあ〜!」

夕立「超見たいっばい!」

ライラ「そんなになのですか?」

閃華「うん!でも今時の男子ってみんなイケメン多いよね?」

夕立「そうっばい!」

ライラ「では閃華から見てあそこに居る人達はどのようなのですか?」(チラリ

全員『……………』

突然ライラが一同を横目に見やる。

閃華「そうだね〜……………」(じ〜…

それに乗っかって閃華が一同を品定めする!

夕立「じゃあまずは…その赤ジャンの人からっばい！」
士道「……………」

閃華「……なんか色々と苦労してそう…」

士道「……苦労って……」

閃華「なんか”半熟”って周りから言われてそう…」

士道「ッ!？」

ライラ「ではその男の子は？」

宗谷「……………」

閃華「……あの子はね…もつっとエロに徹した方が良い!!」

宗谷「…w w w w w w」

(ニゲーン!) 宗谷、アウトー!

巧「…あの人は大声で何言ってたんだよ？」

宗谷「知るかw w w」(バシーン!)

ライラ「エロ?」

閃華「そう、エロ!こう……発情期真っ只中の勇者みたいな感じに……」

ライラ「発情期?」

閃華「と言うかあいつももう勇者でいい」

メテオ&メガネ&時雨「「w w w w w」」

(ブアーン!) メテオ・王花・時雨、アウトー!

メテオ「勇者で良いつて意味わかんねえw w w」(バシーン!)

メガネ掛け機「あいつつて言うのやめてw w w」(バシーン!)

時雨「w w w w w」(バシーン!)

宗谷「……………」(何とも言えない顔)

夕立「じゃあ次の子っばい!」

時雨「……………」

閃華「見た目は凄く可愛い女の子って感じだけど、ああ言うのって実際凄く男らし

他二人「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」(バシーン!)

ライラ「じゃあ次h…」

閃華「あの子は凄く良い!!」

メガネ掛け機「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」

他7名『ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ』

(ブデーン!) 全員、アウトー!

《何故か王花は閃華のお気に入り》

メガネ掛け機「く、食い気味に言われたｗｗｗｗ」(バシーン!)

メテオ「待って、待って!腹がヤバい!ｗｗｗｗ」(バシーン!)

ライラ「えええ……」

夕立「あれはないっばい…」

《何故か否定気味なライラと夕立》

閃華「何で？」

ライラ「だって……ねえ？」

タ立「つばい！」

ライラ&タ立「名前が『メガネ掛け機』だから（つばい）」

宗谷&巧&メガネ「「wwwwww」」

（デーン！） 宗谷・巧・王花、アウトー！

《名前でかつこよさを否定される王花》

宗谷「そう言えばそうだったwww」（バシーン！）

巧「お前何時まで名前がメガネ掛け機なんだよwww」（バシーン！）

メガネ掛け機「こつちが聞きたいですよwww」（バシーン！）

閃華「そんなの簡単じゃん、メガネを取ればいいんだもん」(王花からメガネを外してメガネ掛け機↓王花「あ、名前が戻った」)

ライラ&夕立「カッコいい!!超イケメン(っぽい)!!」(目がキラキラ…)

王花&時雨「wwwwwwww」

(ブアーン!) 王花・時雨、アウトー!

《メガネを外した途端に態度を変えるライラと夕立》

時雨「ズルい!それはズルい!!www」(バシーン!)

王花「不意にそれはズルいですよ!www」(バシーン!)

夕立「最後、あの天パの人は?」

メテオ「……………」

閃華「…………あれ？あの人が、”AV男優”にいたわよね？この前私AVビデオであの人が見たわよ？」

全員『wwwwwwwwwwwwwwwwww』

(ブザーン！) 全員、アウトー！

メテオ「やってねえよなんもんwwww」(バシーン！)

宗谷「その前になんてもんを見てんだよwwww」(バシーン！)

王花「やめて姉さん！キャラが、キャラが酷い事にwwww」(バシーン！)

ジント&土道「くくくくwwwwwwww」(バシーン！)

閃華「ヤバッ!?!教会の仕事に遅れる！」

ライラ「え？本当ですか!?!」

夕立「急ぐっばい！」

こうして彼女達はバスから降りて行った。

全員『……ハアアアア………』(ぐでぐで……)

メテオ「散々な言われようだな、おい……」

士道「教会の事に遅れるって、これ教会行きのバスだろ？」

エリナ「くつw ちょ、士道、そう言うツツコミやめて」

開始から既に一時間、壮絶なお仕置きラッシュが止まらない。

だがそんな8人に、遂にゲームの舞台である教会が姿を現す！

| | | | | | | |

『全員バスから降りたか？ (・ω・)』

全員『降りました……』

『見てみ、あれが今回お前らが研修する場所……プラネテューヌ教会や、綺麗やろ？』

メテオ「いや綺麗も何も……」

宗谷「住んでる場所だし……」

エリナ「見慣れてるわよ……」

『ほら見てみ、ここに銅像があるやろ？これがこの教会に住み、この国プラネテューヌを納める女神様、パープルハート様の銅像や（・ω・）』

↓亀甲縛りで吊るされ、惚け顔なパープルハートの銅像

全員『wwwwwwwwwwwwwwwwww』

（デアーン！） 全員、アウトー！

メテオ「ネプテューヌwwww」（バシーン！）

宗谷「何してんだよあいつwwww」（バシーン！）

巧「なんだよこの銅像www」(バシーン!)

王花「こんな女神様の銅像があつてたまるかwww」(バシーン!)

時雨「これは酷いwww」(バシーン!)

エリナ「こんな女神に国を守られたくないwww」(バシーン!)

ジント「むしろ守れるの? www」(バシーン!)

士道「国の象徴おいwww」(バシーン!)

『www……ほんなら中に入るで? まずはお前らの先輩に当たる教祖への挨拶や』

メテオ「痛え…バスの時点でしたまケツ叩かれてるから…」

宗谷「でもここからが本番なんだよな…」

巧「うわあ……行くのが怖くなって来た…」

王花「バスであんな目にあつたから…耐えきれぬ自信がない…」

時雨「もう恐怖しかないよ…」

ジント「……来たことに後悔してきた…」

エリナ「……もう今更よ…」

士道「……何が出るのやら…」

『……ほな、入るで？』（ぎい…

「「「「……………／／／／／」」」

《扉を開けたら亀甲縛りで吊るされてるパープルハート、パープルシスター、アイリスハート、大人イストワール（白宇宙）が出迎え》

全員『……………』

（デブーン！） 全員、アウトー！

バ
シ
ー
ン
!×
8

…
…
絶対に笑ってはいけない教祖24時《引き出し編》に続く…
…

絶対には笑ってはいけない教祖24時！ 《引き出し編》

絶対に笑ってはいけない教祖24時 《引き出し編》

謎の出迎えを受けた一同は、先輩教祖に挨拶をするべく教祖室へと訪れる事となった。

『教祖室』

お前ら、ここが先輩教祖がいる教祖室や、ここにお前らの先輩にあたる教祖様がおるからくれぐれも粗相のないようにせや（・ω・）

メテオ「ここか…」

巧「一体何が出てくるのやら…」

王花「もう何が出てきてもおかしくありませんよね…」

宗谷「ム　sやら仮面ライダーやら精霊やらが出てきてるんだ…おかしくねえよ…」

どんな笑いの刺客が出てくるのか、不安を感じる一同…そんな中…。

ジント「……なあ、せめて何か着させてくれない?俺、この格好寒いんだけど…」↑
ブーメラランパンツ一丁

王花「くつwww」

時雨「ふふwww」

(アデーン!) 王花・時雨、アウトー!

王花「と言うか何でその格好なのwwwwww」(バシーン!)

時雨「今冬なのになんでwwwwww」(バシーン!)

ジント「いや、だって…この格好で出ろって言われたから…」

※この時の撮影時期は”冬”で行われております。

何アホな事をしてんねん、さっさと中に入って先輩に挨拶してきいや(・ω・)
士道「仕方ねえな…」

エリナ「さっさと済ませて来ましょ」

そう言つてようやく教祖室に入るが…。

アイエフ&コンパ「……………／／／」

”
《中に入ったら》猿轡を口に加え、犬耳と犬尻尾を着けた下着姿のアイエフとコンパ
》が出迎え》

メテオ「ブツ！w w w」

宗谷「クツクツクツ！w w w」

巧「ハツハツハツハツ！w w w」

（アデーン！）メテオ・宗谷・巧、アウトー！

《最初に入って真っ先に見て笑ってしまったメテオ、宗谷、巧の3人》

メテオ&宗谷&巧「「な に し て ん の w w w w w w」」(バ
シーン!

王花「え? 一体どうし…んふっふっふっ w w w」

時雨「何かあったん…ぶふふ w w w」

士道「何を笑って…ふふっ w w w」

エリナ「貴方まで何を笑っ…アハッハッハッ! w w w」

ジント「え? 何々…んくっ w w w」

(「アデーン!」) 王花・時雨・士道・エリナ・ジント、アウトー!

《後から入ってきたメンバーもそれを見て笑い出す》

アイエフ&コンパ「「……………//」」

そのままアイエフとコンパは退場する。

メテオ「してやられた…何だよあの S M プレイネタ…」

《先輩教祖がサンシャイン池崎コスのソル・ドウミナス（ソルヒート）》

一同『……………』（ぼかーん…

《あまりもの普段とはかけ離れた事をするソルに兄であるメテオや、交流場（||TWI tter）で知り合ってる彼ら全員……………啞然》

ソル「くうううう前、絶後のおおお……………!!超絶怒濤の無個性人!!……………無個性を愛し、無個性に愛された男……………

”真面目”……………根性強い”……………特に何もなし”!!」

ジント「んふふ……………WWW」

メテオ「自虐に走ってるだけじゃねえかWWW」

※既に笑いましたが、このままお楽しみ下さい

ソル「ダメだ!!」

《突然落ち込み出すサンシャイン・ソル》

ソル「何かが足りない!これじゃあ”頂点”なんかを立てない!!」

ジント「そりゃ無個性だからな……w」

時雨「むしろ無個性で頂点って、なに?w」

ソル「俺に”変身”する魔法を掛けてくれ!!」

するとソルの左右からバズーカ砲を構える黒子(アイエフとコンパ)が現れる。

宗谷「何をやる気なんだ……?」

王花「何か”変身”とか言っちゃいましたけど……」

ソル「これで俺は”変身”するんだ!頂点に立てる自分に!……”変身”!!」

——ブシャアアアアアア!!

《黒子が構えるバズーカ砲からCO₂ガスが吹き出てソルを包み込む》

巧「頂点だよ!確かにこれは頂点に立てるよ!wwww(バシーン!)」

宗谷「ライダーとしても、中の人(≡佐野 岳)的にも!wwww(バシーン!)」

王花「確かにこれは”変身”だわwwww!(バシーン!)」

時雨「リアル頂点な人が来ちゃった!wwww(バシーン!)」

メテオ「よくこんな事やれるよ紘汰兄さん!wwww(バシーン!)」

エリナ「凄過ぎる人が来ちゃった!wwww(バシーン!)」

士道「てか、よくこんな役引き受けたなあの人!wwww(バシーン!)」

ジント「仮面ライダー知らねえけど、とにかくリアルな意味で凄い人つてのがわかつ

た!wwww(バシーン!)」

紘汰「くううううう前、絶後のおお……!!超絶怒濤の頂点人ちやうてんびとお!!……頂点を愛し、

頂点に愛された男……」

仮面ライダーで神様になった・スポーツ王で2連覇・サバイバル対決も勝者となった

……そう、我こそはあああああ……!!」

その他一同『ふぶふうふううう!! w w w w w』

(ブテーン!) 巧・王花・時雨・士道・エリナ・ジント、アウトー!

巧「あの二人の扱いw w w」(バシーン!)

王花「また凄い大物が来たと思つたらw w w」(バシーン!)

時雨「これは酷いw w w」(バシーン!)

士道「大物すらも蹴落とすここの作者(∥ソルヒート)の恐ろしさw w w」(バシーン

!

エリナ「それに巻き込まれたシンシアが可哀想w w w」(バシーン!

ジント「酷えw w w」(バシーン!)

……ほな、さっさと研修室に行くで(・ω・)

メテオ「…え? 終わり?」

宗谷「あの人達の出番……これで終わりなの?」

士道「つくづく酷え……」

研修室

ようやく研修室に辿り着いた一同は、出入口から奥にジント、エリナ、土道、時雨、王花、巧、宗谷、メテオの順に席に座らされる。

ほな、何かあるまで適当にここで休んでてや（・ω・）
 そう言い、案内人は退室した。

メテオ「……はあく……」（ぐったり……）

時雨「バスの時からハードでしょこれ……」（ぐったり……）

宗谷「……俺、トイレ行ってくる……」

王花「あ、俺もトイレ行ってくる……」

一同、ぐったりしてる中、宗谷と王花はトイレに行くのであった。

トイレ

宗谷「はあく……」(スツキリ)

王花「お尻の方はどうですか?」(スツキリ)

宗谷「滅茶苦茶痛い……笑い過ぎて何回もしばかれたから……」

王花「この企画を考えたあの人(＝ソルヒート)さん、頭おかしいでしょ?」

宗谷「やめろ、そしたらそんな作者の元に生まれたメテオ達もそうなるから、可哀想だから」

王花「あ、それもそうか……」

宗谷「……そういや今何時?」

王花「……大体9時半くらいですかね?」

宗谷「長いな……」

王花「ええ、結構時間が経ったと思うけど……」

——ガチャ×4

紘汰&ソル&ヴィクトリオン&シンシア「……」(スタスタ……)

宗谷&王花「……WWWWWW」

《トイレの個室から絃汰、ソル、ヴィクトリオン、シンシア（全員サンシャイン池崎コ
スチューム）が…》

（ブアーン！） 宗谷・王花、アウトー！

宗谷「ちくしょうwww」（バシーン！）

王花「完全なる不意打ちだwww」（バシーン！）

研修室

（ブアーン！） 宗谷・王花、アウトー！

メテオ&巧&時雨&土道&エリナ&ジント「[[[[[[ツッ!?[[[[[[」（ビクッ！）

メテオ「……は？トイレ？」

時雨「ええ……せめてここ（＝研修室）とトイレは憩いの場にしてよ……」

巧「そうだそうだ!」

士道「いよいよよしんどくなってきたぞ…!?」

宗谷&王花「……………はあ……………」(戻ってきた)

時雨「何があつたの?」

宗谷「…トイレの個室からサンシャイン池崎の格好をした紘汰さんとソルクン、シンシアに知らない人が出てきた…」

メテオ「くっ…w」

巧「何故に男子トイレにシンシア…w」

王花「……………」(メテオと巧を指差し)

——シーン……

王花「……………チツ」

《監視役が見逃した為にセーフ》

士道「おい、やめろよ…裏切りや貶し合いは?」

エリナ「そうよ、みんなで乗りきりましょう?」

ジント「そうだな」

メテオ「……なあ、それよりも机の中…気にならね?」↑引き出しが3つの机に座つて

時雨「机?」

《それぞれの机には何個かの引き出しが…》

宗谷「……本家の笑つてはいけないでは必ず何か入ってるんだよな…」

士道「開けない方が安全だろ?」

巧「そうだよな……」

王花「強制つて訳でもありませんし…」

メテオ「だよな……」

全員『……………』

メテオ「……………」(ガラガラガラ

—————プシュー—————!!!

メテオ「ツ?!?!」(ガッターン!

宗谷&巧&王花&時雨&士道&エリナ&ジント 「コッコッ?」「コッコッ?」「コッコッ?」「コッコッ?」「コッコッ?」「コッコッ?」「コッコッ?」「コッコッ?」「コッコッ?」「コッコッ?」 (ビクーン!)

全員『……ブフツ!! w w w w w w w w w w』

(ブデーン!) 全員、アウトー!

メテオ「び、ビックリしたw w w」(バシーン!)

王花「悪意しかねえw w w」(バシーン!)

メテオ「……あく……ビックリした……場合によつては怪我する恐れがあるぞ……」

ジント「どうする?次、開ける?」

メテオ「ああ、ここまで来たら全部開けてやる」

宗谷「慎重に頼むぜ?」

メテオ「ああ、慎重に……行くぜ?……っ!」(ガラガラガラ!)

《空っぽ》

メテオ「……………プツw」

(デブーン!) メテオ、アウトー!

メテオ「まさかのスツカラカンw w w」(バシーン!)

エリナ「……一段目だけってオチかしら?」

メテオ「そんなまさか…行くぞ!」(ガラガラガラ!)

《ぎっしりと詰まった大量のミ〇ドのドーナツ》

メテオ&宗谷&王花「「w w w w w w w w」」

(デブーン!) メテオ・宗谷・王花、アウトー!

メテオ「やめろよこういうのw w w」(バシーン!)

宗谷「どんだけ入ってんだよw w w」(バシーン!)

王花「全部ポン・〇・リングだしwww」（バシーン！）

メテオ「……取り敢えず俺の所は終わりだ」

ジント「次、誰が行く？」

王花「……じゃ俺が……」↑引き出しが4つの机に座ってて

メテオ「一番上気を付けろよ？」

王花「はい！」（ガラガラガラ！）

《空っぽ》

王花「……何もない？次は……」（ガラガラガラ）

《黒いボタン》

王花「……ん？」

巧「ボタン……？」

時雨「……なんか押したくないね」

王花「…押してみますか？」

宗谷「全部見てから押せばいいんじゃないか？」

王花「そうですね…：…では！」（ガラガラガラ！

《月のマークが入ったボタン》

王花「…え？また？」

メテオ「でもなんか違うな？」

宗谷「何か意味でもあるのか？」

王花「…なんか怖いな…」（ガラガラガラ

セラ（ライドライダー）「…：…：…」

《体育座りで見つめてくるセラ（妖精モード）》

王花「…：…ふふふ」

時雨「んふｗｗｗｗ」

(ニゲーン!) 時雨、アウトー!

時雨「待つて待つて!?!王花も笑つてたじゃん!」(バシーン!)

《セラ、そのまま退場》

王花「まさか体育座りの状態であんな純粹に、つぶらな瞳で見つめて来るなんて…」

巧「くっ?!?www」

士道「ふぐっwww」

(ニゲーン!) 巧・士道、アウトー!

士道「解説するなよwww」(バシーン!)

巧「しかも何気にときめかせてんじやねえよwww」(バシーン!)

王花「……じゃあ…ボタン、押します?」

エリナ「早く処理したいけど……怖いわ」

士道「何かあるかわからねえしな…」

王花「…取り敢えず一個押します、この黒いボタンを」(黒いボタンを手元に持つてきて)

王花以外全員『……………』(後退り)

王花「いやいやいやそれやめてくださいよ!?!?押すのが怖くなりますから!」

宗谷「いや…何が来るのかわからないし」

巧「さっさと押してくれよ」

王花「はあ…よし、行きます!」(ポチッ

——ガラララッ

ブラックハート「……………」

《メツちゃん人形を全身に完全装備したブラックハートが登場》

メテオ「」(顔面蒼白)

メテオ以外全員『……………w w w w w w w w』

(ブアーン!) 宗谷・巧・王花・時雨・士道・エリナ・ジント、アウトー!

巧「メwwwテwwwオwww」(バシーン!)

時雨「全身メテオまみれwww」(バシーン!)

宗谷「絶対あれメテオの所のノワールだよなwww」(バシーン!)

士道「ああwww黒だからノワール、ブラックハートかwww」(バシーン!)

エリナ「凄く納得www」(バシーン!)

ジント「なにあのノワール怖いwww」(バシーン!)

ブラックハート「……………」(ジリジリ…)

全員『……………』

ブラックハート「……………」(ジリジリ…)

メテオ「…………え?!?な、なんだ…?」(後退り)

《何故か無言で徐々にメテオに近づくブラックハート》

ブラックハート「……………」(ジリジリ…)

メテオ「……………」

——ガッ!

メテオ「ハア……ハア……!?」(のど輪から解放されて
ブラックハート「……………」

——ガラララピシャツ!

《そのまま無言で退場》

メテオ「ま、まさかのど輪を食らうとは……!」

士道「……黒がノワールだからこの月のマークが入ったボタンは……?」

巧「……誰だ?」

王花「うわぁ……怖いな、押すの……」

ジント「もう押して、とっとと処理しちまおうぜ?」

王花「うん……はい」(ポチッ)

——ガラララッ!

ルナ(仮面レックス)「……………」

時雨「wwwwwwww」

ジント「wwwwwwww」

(ニゲーン!) 時雨・ジント、アウトー!

ジント「そういやルナがいたwww」(バシーン!)

時雨「なんとなく予想は付いてたけどもwww」(バシーン!)

ルナ「……………」(スタスタスタ!)

メテオ「…………え?」

《何故かメテオに向かつて一直線》

メテオ「…いや待てそんなわk…待て!落ち着k…………んごあああああああ!?!」
ルナ「……………」

《ルナもメテオにのど輪》

メテオ以外全員『wwwwwwwwww』

(ブアーン!) 宗谷・巧・王花・時雨・士道・エリナ・ジント、アウト!

ジント「はははははwwwwww」(バシーン!)

王花「もうやめてあげてwwwwww」(バシーン!)

宗谷「メテオが可哀想過ぎるwwwwww」(バシーン!)

巧「メテオに何か恨みあんのwwwwww」(バシーン!)

時雨「何でこんな事引き受けちやつたのルナwwwwww」(バシーン!)

エリナ「ひいwwwwwwひいwwwwww」(バシーン!)

士道「苦しそうなメテオの顔wwwwww」(バシーン!)

メテオ「ごお……お……おお……!?!」

ルナ「時雨は私のモノ時雨は私のモノ時雨は私のモノ時雨は私のモノ時雨は私のモノ時雨は私のモノ……」(ブツブツブツブツ…)

メテオ「…つつ……!?!」(ぶるり…)

時雨「ひいッ!?!」(ぞくり…)

宗谷&巧&ジント「wwwwwwwwww」

(ニデーン!) 宗谷・巧・ジント、アウトー!

宗谷「あの子もかwwwwww」(バシーン!)

巧「ヤンデレ怖つwwwwww」(バシーン!)

ジント「一体何があつたwwwwww」(バシーン!)

時雨「……いや、本当に何でこんな事引き受けちゃつたの…!」

メテオ「ハア…ハア…ハア…!」(解放された)

ルナ「………」(スタスタスタスタ…)

——ガラララピシヤツ!

全員『……………』

メテオ「……これ、押すもんじゃねえよ…」

玉花「………そうですね」

メテオ「……これどっかに置こうぜ、危険だ」(ボタン2つを部屋の隅っこに置いて

宗谷 「じゃあ次は俺でいいか？」 ↑引き出しが4つの机に座ってて
王花 「いいですよ」

宗谷 「……………」 (ガラガラガラ)

《イストワール (白宇宙) のプロマイド》

宗谷 「……………んふw」

(アデーソン!) 宗谷、アウトー!

メテオ 「……………え? 何が入ってた?」

宗谷 「くつ……………w」 (バシーン!)

時雨 「何?……………つw」

士道 「……………つ」

メテオ 「流石は恋人w」

宗谷 「つ、次次!」 (ガラガラガラ!)

《大量のイストワール（白宇宙）のプロマイド》

メテオ&宗谷 「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」

（デデーン！） メテオ・宗谷、アウトー！

メテオ 「ああもうｗｗｗｗｗｗｗｗ」 （バシーン！）

宗谷 「いーすん推しはやめろよおｗｗｗｗｗｗｗｗ」 （バシーン！）

士道 「……本当に抜かりねえな、こここの罨」

巧 「三段目もあるのか？」

宗谷 「いや、流石にそれは……」 （ガラガラガラ

イストワール（神次元） 「……………」

《引き出しを開けたらちっちゃいーすんが座って見つめてきていると言う罨》

全員『w w w w w w w w w w w w』

(ニゲーン!) 全員、アウトー!

メテオ「しつけえなw w w w w w」(バシーン!)

宗谷「どんだけーすんを推して来るんだよw w w w w w」(バシーン!)

巧「くどいw w w w w w」(バシーン!)

王花「プロマイドの次は別次元の本物かw w w w w w」(バシーン!)

時雨「何でもありだねw w w w w w」(バシーン!)

土道「ある意味当たり前だよw w w w w w」(バシーン!)

エリナ「これは笑うわw w w w w w」(バシーン!)

ジント「本当に拔かりがねえw w w w w w」(バシーン!)

《ちっちゃいーすん、退場》

宗谷「しつこいまでにいーすん推ししてくるな…」

エリナ「じゃあ次は私が行くわ」(ガラガラガラ↑引き出しが2つの机に座ってて
《空っぽ》

巧「勇氣あるな…」

エリナ「こう言うのは思いつきり行った方がいいのよ」(ガラガラガラ!)

《DVD2枚》

エリナ「……………え?DVD?」

士道「そんなものもあるんだな…」

メテオ「おい見ろよ、あそこに置いてあるモニターの下にDVDプレイヤーがあるぞ」

王花「えー……………見たくないな…」

宗谷「でも見ないと落ち着かなくないか?」

時雨「じゃあそれは後で見ることにして置いて…先に僕の所を見よう?」↑引き出しが4つある机に座ってて

巧「だな」

時雨「じゃあ行くよ」(ガラガラガラ)

《バナナ1本》

時雨「……んふっ」

ジント「あ、笑った」

時雨「笑ってない笑ってない、次」（ガラガラガラ

《バナナ2本》

時雨「くふふふっ w w w w w w w w w w」

士道「w w w w w w w w w w」

(ニゲーン!) 時雨・士道、アウトー!

時雨「何でこんなので… w w w w w w」(バシーン!)

士道「ちくしょう! 時雨に釣られた!」(バシーン!)

宗谷「食パンだったりミ○ドだったり…」

王花「バナナとか…よく食べ物を入れてますよね…」

宗谷「意味わかんねえよw w w w w w w w w w」(バシーン！)

時雨「四段目、行くよ？w」

巧「……ん？」

時雨「……え？」

巧「今笑ったよな？」

時雨「ううん？」

巧「ブフツ！w w w w」

(ニデーン！) 巧、アウトー！

巧「いやおかしいって！ちゃんと見てろよ監視役う！」(バシーン！)

時雨「人を陥れようとして罰だよ……じゃあ、開けるよ？」(ガラガラガラ)

《花陽(ラブライブ)人形》

時雨「……………」

時雨「ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ」(バシーン！)

メテオ「今の絶対に絵美のブレイクアクセレータの声だろお！ｗｗｗｗｗｗｗｗ」(バシーン！)

宗谷「何気に上手い具合に噛み合った会話だったのが腹立つｗｗｗｗｗｗｗｗ」(バシーン！)

士道「一粒で何度美味しいんだよｗｗｗｗ」(バシーン！)

開始から既に2時間。

止まらぬ仕掛けの勢いに翻弄される一同だが、まだ引き出しネタは終わっていない。

エリナ「……………」

時雨「……………」

王花「……………行きましようよ」

《エリナの引き出しに入っていたDVD2枚》

エリナ「……………本当に行く？」

メテオ「まあ、気になるしな」

時雨「……………絶対にいいことないよ」

エリナ「……行きましょう、気になるから」

宗谷「もう嫌な予感しかない……」

士道「DVDには何て書いてある?」

ジント「普通にDVD1と2って書いてあるぞ、1入れるからな」

DVD1の映像

《(初代) 仮面ライダー主題歌『レッツゴー・ライダーキック』》

デーン! デデン……

テレレレレレ! テツテレレレ!

テレレレレレ! テツテレレレ!

王花「あ、これって……」

宗谷「初代仮面ライダー……仮面ライダー1号のテーマソングだ……」

♪

迫る、”タイキツク”!地獄の蹴りだ♪

メテオ「……………ん?」

時雨「……………あれ?」

彼らの尻を狙う黒い影、彼らの尻を蹴る為♪

士道「……………は?」

エリナ「……………え?」

Go!Go!Let's Go♪
一撃必殺♪

ジント「……………はい?」

巧「……………ま、まさか…!?!」

『メテオ』に”タイキツク”! 『宗谷』に”タイキツク”!

琴里(天音/I A)『て言うか』

『全員』、”タイキツク”♪

(デデーン!) 全員、”タイキツク”ー!

全員『…ハアアアアアアアアアアアアアアアアア!?』

巧「待て待て待て待て！何だよそれ!？」

宗谷「本家の笑つてはいけないでもないぞそんな事!？」

王花「全員タイキックつて、前代未聞じゃないですか!？」

メテオ「そもそも何で全員!?!おかしいだろ!？」

エリナ「嫌嫌嫌嫌!?!そんなの嫌ああああああ!？」

士道「何だよこの悪意の塊!?!一瞬、琴里の奴も出てきたし!？」

ジント「理不尽だ!?!横暴だ!！」

《タイ人達、登場!》

タイ人「!?!シユリア!!!?!」(勢いよく扉を開けて入場!)

士道「ガチじゃねえか!！」

王花「しかも全員蹴りを得意とするムエタイ選手!？」

時雨「死ぬ!死ぬってこれ!！」

エリナ「容赦なしなの!?!容赦なしなのこれえ!！」

メテオ「……………ん?」(何かに気付く)

桐生一馬(龍が如く)「……………」(ムエタイ選手の格好で混じって

秋山 駿(龍が如く)「……………」(同じく

クロテューヌ(超輪)「……………」(言わずもがな

仮面ライダーオルペウス(不知火)「……………」(唯一変身して

《タイ人達の中にとんでもない人達が混じってる罍》

巧「待てええええええええええええええええええええええええええええええ!!ちよつと待てええええええええええええええええええええええええええええええ!!」

ジント「明らかにタイ人じゃない人達がいるんですけどおおおおおおおおおお!!」

宗谷「なんかガチ以上な人達が半分ほど混じっているんですけどおおおおおおおおおお!!」

時雨「待つて待つて!!ちよつと待つて!!」

王花「優しく!?!できれば優しくめにお願いしま…」

タイ人「ムウン！」（タイキック!!）

王花「（スパーン!!）……………!!?!?!?!?」（悶絶！）

時雨&士道&エリナ「二」「三」（顔面蒼白）

王花「あㄟ※□●★◎?!」（転がり回り）

時雨「お願い待って!? 力封印されてごく普通の人間の状態だから!? こんな食らった
ら洒落にならな…」

タイ人「ナエヤア！」（タイキック!!）

時雨「（スパーン!!）…ツツツツツ?!?!?」（悶絶！）

時雨「おつ……………ふ◎◎…いいㄟ■▲%◎※#おんツ?!」（転がり回り）
士道&エリナ「……………」（冷や汗だらだら…）

士道「……………な、なあ…慈悲は……………」

「イイイイイ!?!?!」(大・悶・絶!)

巧&ジント「「」」「『いつそ殺してくれよ…』』と言いたげな顔で

宗谷「…あ…あ…あ…あ…」(虫の息)

オペリウス「さあ、やるぞ」(巧をロックオン!)

巧「嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ!!絶対に嫌だ!!」(必死に抵抗、そして…)

オペリウス「うるさい」(お約束の…)

巧「(ズドオオオオオオン!!)…ウリイイイイイイイイイイイイイイイイイイ」(大・悶・絶!)

ジント「」(最早何も言えず)

巧「おおうん…おおおおお…!!」(地面に突っ伏して呻いて)

クロテューヌ「じゃあ、行つくよー♪」(ジントをロックオン!)

《明らかにタイ人じゃない人達によるタイキックを受けて撃沈するメテオ・宗谷・巧・ジントの四人》

王花「……………無理そう…ですね…」

時雨「……………仕方ないよ、あれは…うん…」

エリナ「……………どうするのよ、これ…」

士道「……………どう考えてもこれは次回へ持ち越しだろ…」

王花「ええ…」

時雨「まだやるの……………」

士道「仕方ねえだろ、まだ俺と巧、ジントの3人が引き出し開けてねえんだからよ」

エリナ「……………それに、まだDVDがもう1枚あるから…」

王花&時雨「……………地獄だ…」

《次回予告》

最強のタイキック部隊に撃沈した一同だが、彼らに休む暇はない!

残された巧・土道・ジントの机の引き出しネタによって場はさらに笑いの地獄と化す
!!

「プハハハハハ!! w w w w w w w w w w」

「お前いい加減にしろよ! w w w w w w w w w w」

「結局それって何 w w w w w w w w」

(デデーーン!) 全員、アウトー!

……………絶対に笑ってはいけない教祖24時《引き出し編。パート2》へ続く……………

絶対に笑ってはいけない教祖24時! 《続・引き出し編》

絶対に笑ってはいけない教祖24時! 《続・引き出し編》

メテオ「……よし、やつと痛みが引いたぞ…」

宗谷「やべえ…マジでやべえよ秋山さんの蹴り……」

巧「総越の野郎……後で覚えてろよ……!」

ジント「クロテューヌ……!あいつマジで許さん……!」

《何とか復活した前回のタイ人よりもヤバい人達のタイキックを食らったメテオ・宗谷・巧・ジント》

王花「お? やつとですか……」

時雨「遅いよ四人とも……」

巧「あ? っ?」

宗谷「いやいや、お前らも食らってみろよあの人達の蹴り……死ぬかと思ったぞ」

メテオ「流石4代目……恐ろしい……」

エリナ「……ねえ、それよりも早く次のこれに行きたいんだけど？」

一同内での一触即発の空気の中、エリナが前回見れなかったもう1枚のDVDを見せる。

ジント「ええ……もういいよ……」

士道「また全員タイキックとか勘弁だぞ……」

エリナ「ビクビクしないの、こうなったらもう見るしか選択の余地はないわよ？」

巧「そうだそうだ！」

宗谷「お前らも秋山さんとかの蹴りを食らえよ」

王花「嫌ですよ、死んじゃいます！」

時雨「……ほい」

《勝手にDVDを入れる時雨》

メテオ「あ、バカ！何勝手に入れてんだ時雨！」

時雨「いや、気になったから……」
士道「やれやれ……お、映像出るぞ」

DVD2の映像

『龍が如くOF THE END』より…。

メテオ「……………ん？」

王花「……………え？」

『GET TO THE TOP』

時雨「え？それって確か……」

宗谷 「ミニゲームのカラオケの奴か…」

『歌い手：真島 吾朗&東條 希』

『バッグダンサー：μ's』

全員 『……………ん?』

~~~~~♪

真島（龍が如く）&希（ラブライブ!）「ンレエツツゲットウザトオオツプツ!! W W

W  
W  
W  
」

全員『wwwwwwww』

《出だしから声が裏返る程ハイテンションな真島の兄さんとのんたん(笑)》

(ブアーン!) 全員、アウトー!

巧「ビックリしたwww」(バシーン!)

宗谷「のんたんwww」(バシーン!)

メテオ「関西弁コンビwww」(バシーン!)

王花「出だしからこれは酷いwww」(バシーン!)

他四人「『wwwwwwww』」(バシーン!)

《出だしの歌い初めで爆笑する一同》

希「う愛想!う笑い!ドウアタキヤン!どうおげざ!行き交う!日常? wwwwwww」

ww

真島「繰り→返→し←やで〜♪→w w w w w w」

メテオ&宗谷&王花&時雨「「「w w w w w w」」」

(ブグー！) メテオ・宗谷・王花・時雨、アウトー！

宗谷「ま・じ・ま・の・に・い・さ・んw w w」(バシーン！)

メテオ「希の『う愛想！』とか『う笑い！』つてw w w」(バシーン！)

王花「待つて待つて待つてw w w w w w」(バシーン！)

時雨「酷い酷い！お腹痛いよこれw w w w w w」(バシーン！)

希「とうおつて！つけた！ような！言い訳じや…」

真島「言い訳ばつかじや何も変わらへん」

真島&希「アホかボケエー！w w w w w w」

宗谷&士道&ジント「「「w w w w w w」」」



宗谷「そのんたんがやるのね w w w w w」

メテオ「真島の兄さんよりもスゲエノリノリ w w w w w」

※既に笑いましたがこのままお楽しみください

《さらにバッグダンサーの希を除いた μ s (ラブライブ!) メンバー登場!》

真島&希「ぶち壊したるでえー!! w w w w w」

μ s 『w w w w w』

《ザビ突入時の高笑いポーズを決める歌い手とバッグダンサー達》

巧「w w w w w w w w」

王花「ですよね w w w 来た以上は μ s の皆もバッグダンサーとしてそのポーズやりますよね w w w w w」

ジント「w w w w w w w w」

真島「きょろくから!」

希「Tryやでえ〜! w w w w w w」

時雨「のんたんの『Tryやでえ〜!』 w w w w w w」  
エリナ「w w w w w w」

希「別れ告げよう!」

真島「い〜つもの!」

真姫（ラブライブ!）「トラウマへ〜♪」

《何故かそこに入って来た真姫姫》

メテオ「何故にそこに入って来た w w w w w w」

時雨「しかも美声だから無駄にいいと言う w w w w w w」

士道「w w w w w w w w」

真島「ラメ色した！」

希「あゝしたゝへ！」

真島&希「F r yやでえゝ！ w w w w w w」

《『F r yやでえゝ！』で大ジャンプする全員》

全員『w w w w w w w w w w』

メテオ「何か笑えてくるw w w w w w w w」

真島「目の前にはゝ♪」

希「輝くゝ♪」

海未（ラブライブ！）「シャイニングゲエトオオオオオオオオオオオオオオオオオツ！！」

全員『ぶふうううううう！！w w w w w w w w』



真島「昨日より♪」

にこ（ラブライブ！）「キャオツ!!」

希「高い♪」

穂乃果（ラブライブ！）「ウワアオツ!!」

ことり（ラブライブ！）&花陽（ラブライブ！）

「場所へ♪」

全員『バツグダンサー出過ぎ!! W W W W W W W W』

《もうやりたい放題なバツグダンサー達》

真島「……………」（いそいそ…）

μ, s『……………』（いそいそ…）

《大急ぎに人間ピラミッドを作り出す真島&μs》

メテオ「よ、ようやくフィニッシュか…?」

宗谷「は、早く歌い終わ…」

絵里(ラブライブ!)「GET TO THE TOP!!」(ドヤア!)

全員『wwwwwwwwww』

《最後に決めるエリーチカ》

宗谷「えりちwwwwww」

時雨「最後に美味しい所持って行ったwwwwww」

メテオ「人間ピラミッドの頂上てっぺんに立ってドヤ顔で決めるエリーチカwwwwww」

王花「真島の兄さんを踏み台にしたwwwwww」

士道「ヒデエwwwwww」

(デブーン!) 全員、アウトー!

《散々笑った後に待っていたお仕置き》

メテオ「待て! 待てよ…んはあ! w w w」(バシーン!)

宗谷「待って待って! あれは反則だから! w w w」(バシーン!)

巧「むしろあの人達をアウトにしてえ! w w w」(バシーン!)

他6人「「「「w w w w w w w w」」」」(バシーン!)

エリナが取り出した2枚のDVDの最後の1枚がとんでもない笑いを呼んで抱腹絶倒する一同。

だが、彼らにはまだ地獄が残っていた……。

巧「……………」

士道「……………」

ジント「……………」

メテオ「…………おい、誰か早く開けろよ」

巧&士道&ジント「「嫌です」」

《まだ机の引き出しを開けていないのは巧・士道・ジントの三人のみ》

時雨「仕方ないな…」（ガラガラガラ！）

巧「あ、おい！何勝手に開けてんだよ時雨!」 ↑引き出しが3つある机に座ってて

《空っぽ》

時雨「何もない…」

巧「おい、もうやめようぜ…もしこれで次開けて何か入ってたなら…」

時雨「ほい」（ガラガラガラ！）

巧「おい!」

《空っぽ》

時雨「……………あれ？」

巧「……………ん？」

士道「何でも入ってないんだ…？」

王花「最後の最後に何か仕掛けてあるとか…」

メテオ「……………よし！」（ガラガラガラ！

巧「『よし！』じゃねえよメテオおまつ!?!」

《空っぽ（笑）》

メテオ&巧&王花&時雨「……………ふっw」

（ニデーン！）メテオ・巧・王花・時雨、アウトー！

《巧の机の引き出し全て空っぽと言う罫》

メテオ「全部空っぽw w w」（バシーン！

巧「これはこれでムカつくw w w」（バシーン！

王花「やられたw w w」（バシーン！

時雨「こういうパターンもあるのねwww」(バシーン!)

士道「……なんか警戒して損した……」

宗谷「まさか……ネタ切れ?」

エリナ「一応士道のも見なさいよ」

士道「あ?俺か?」(ガラガラガラ!↑引き出しが3つの机に座ってて

《ウサギの絵が描かれたDVD》

エリナ「あら?可愛いわね」

士道「なんだこりゃ?ってか、またDVDかよ……」

ジント「また後で見るとは出来ないな……」

士道「だな、よし次」(ガラガラガラ!)

《“LS”と書かれたDVD》

宗谷「また……?」



エリナ「wwwwww」(バシーン!)

ジント「さりげなくアリファも混じってるしwwwwww」(バシーン!)

まさかのSMプレイ写真の発掘に一同が爆笑する中、いよいよ……。

ジント「最後か……」↑引き出し4つの机に座ってて

ジントを除く全員『……………』(ササッ!)

ジント「おい、下がるなよ皆して!俺だけ地獄を味わえと!」

士道「……いいから早く開けろよ……」

メテオ「皆もう引き出し開けたぞ」

エリナ「後は貴方だけなのよ?」

ジント「くっ!おらあ!」(ガラガラガラ!)

《シンデレラ》と書かれたDVD》

ジント「……………へ?」

宗谷「またDVD……?」

王花「なんか怖くなって来ましたよ…!?!」  
ジント「……………」(ガラガラガラ!)

《SK》と書かれたボタン》

時雨「ボタン…?!」

メテオ「…………おい、俺はもう嫌だぞ、またのど輪されてヤンデレ発言を食らうのは…」  
(ブルリ…)

巧「いやいや流石にないだろ…」

ジント「……………」(ポチツ↑無言でボタン押し

メテオ「あ、おい!」

——ガラララッ!

シンシア(白宇宙)「……………」

カセン(超輪)「……………」

メテオ「wwwwwwww」

宗谷「wwwwwwww」

時雨「wwwwwwww」

ジント「wwwwwwww」

(ブアーン!) メテオ・宗谷・時雨・ジント、アウトー!

メテオ「シンシアかよwwwwwwww」(バシーン!)

宗谷「前回に引き続いて出てきたシンシアwwww」(バシーン!)

時雨「か、カセンwwwwwwww」(バシーン!)

ジント「カセンも出てきたかwwwwwwww」(バシーン!)

シンシア&カセン「……………」(スタスタスタスタ…)

宗谷「ん?え?ま、まさか……………!?!」

《無言で宗谷の元へ一直線》

宗谷「え、ちよ、いやいや嘘だよな？嘘だよな!？」

シンシア&カセン「……………!」（腹パン！）

宗谷「ごふううううううう!？」

メテオ&巧&時雨&ジント「……………」

（ブデーン！）メテオ・巧・時雨・ジント、アウトー！

《何故か宗谷がシンシアとカセンから腹パンされる》

メテオ「宗谷wwwwww」（バシーン！）

巧「今度の犠牲者は宗谷かwwwwww」（バシーン！）

時雨「何か恨みでもあるのかなwwwwww」（バシーン！）

ジント「ヒデエwwwwww」（バシーン！）

シンシア&カセン「……………」（ぐいつ



(デデーン!) 巧・王花・土道・エリナ・ジント、アウトー!

《Wヤンデレに身を震わせる宗谷とメテオと時雨に爆笑するその他一回》

バシーン×5

シンシア&カセン「……………」

——ガラララピシヤツ!

《そのまま二人とも退場》

メテオ「……………」

宗谷「……………」

時雨「……………」

王花「……………何処かに置きましょうか、このボタン…」

エリナ「……………間違っても押すものじゃないわね」

——ほらほらイーちゃん!

——ほ、本当にやるんですか絵美さん!?

メテオ「……………ん?」

宗谷「……………外からいーすとと絵美ちゃんの声…?」

《突然外からイストワール（白宇宙）と絵美（ソルヒート）の音が…》

——ほらほら早く早く♪

——くっ…!い、行きますよ…!

巧「なんだ?」

王花「外で何かをしようとしてますけど…」

士道「……………嫌な予感…」

—— す、すつぺらぴちよん!／／／

メテオ&宗谷 「WWW WWW」

(ブブブーン!) メテオ・宗谷、アウトー!

宗谷 「いーすんWWW WWW」(バシーン!)

メテオ 「そんな恥ずかしがってやらんでもWWW」(バシーン!)

—— ガラガラッ!

閃華(ライドライダー) 「すつぺらぴちよん!」よ!」すつぺらぴちよん!」を探すのよ!」

—— ガラガラピシャッ!

王花「wwwwwwww」

士道「wwwwwwww」

ジント「wwwwwwww」

《いきなり現れ、謎の言葉を残して立ち去る閃華》

(ゴデーン!) 王花・士道・ジント、アウトー!

王花「閃華姉さんwwww」(バシーン!)

士道「すつぺらびつちよん!つてなんだよwwww」(バシーン!)

ジント「そんなものどうやって探せとwwww」(バシーン!)

——ガラララッ!

村雨(仮面レックス)「すつぺらびつちよん!」はここかあ!」(窓から登場!)

——ガラララピシャッ!

時雨&エリナ「wwwwwwww」

《窓から現れて立ち去る村雨》

(ブアーン!) 時雨・エリナ、アウトー!

時雨「村雨wwwwwwww」(バシーン!)

エリナ「ここ5階なのによく来れたわねwwww」(バシーン!)

謎の言葉『すつぺらびつちよん!』を求めて突如現れた笑いの刺客に一同は苦しむ。  
メテオ「ビックリした…怒濤の攻めにやって来たな」

巧「なんだよ『すつぺらびつちよん!』って…」

時雨「……結局あれって…なに? w」

士道「あつ」

(ブアーン!) 時雨、アウトー!

時雨「…………え?あ!しまっ!?…ああ!」(バシーン!)

宗谷「いや、まあ…『すつぺらぴつちよん!』も謎だけどさ…」

王花「これらも謎ですよね…」

そう言つて宗谷と王花が見つめる先は机の上に置かれた3枚のDVD…。

時雨「…………見るしかないよね…」

士道「…………スゲエ嫌なんだが…」

謎のDVD3枚の存在に恐怖を覚える中、一同はやむなくDVDを見ることにした。

---

ウサギの絵が描かれたDVDの映像

『龍が如く5』より…。

宗谷「……………え”っ?」

メテオ「……………またか…」

『KONNANじゃないっ!』

王花「またカラオケネタですか…」

『歌い手：チノ／香風 智乃』

時雨「……………へ?」

巧「……………え?…ごちうさ?」

~~~~~♪

チノ（ご注文はうさぎですか?）「頑張って歌います♪」（マイクを片手に

桐生一馬（龍が如く）&ソリッド・スネーク（メタルギアソリッド）&坂田銀時（銀魂）「「……………」」（無言の拍手↑合いの手

全員『っ?!wwwwww』

（アデーン!） 全員、アウトー!

メテオ「ちよつと待てwww」（バシーン!

宗谷「チノちゃんの後ろにいる人達www」（バシーン!

巧「端から見たら危ない光景www」（バシーン!

王花「元ヤクザに傭兵に侍に合いの手を入れてもらう喫茶店の娘さんwww」（バシーン!

時雨「チノちゃん後ろ後ろwww」（バシーン!

士道「怪しい奴らが後ろにwww」（バシーン!

エリナ&ジント「www」（バシーン!

チノ「それじゃあ皆ー？行つくよ〜♪」

桐生「あ〜！よつしや行くぞ!!」

スネーク「タイガー!」

銀時「ファイヤー!」

桐生「サイバー!」

スネーク「ファイバー!」

銀時「ダイバー!」

桐生「バイバー!ジャージャー!!」

全員『ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ』

《《出だしからの危ない三人組の合いの手に一同大爆笑》》

※既に笑いましたが、このままお楽しみください。

チノ「アノユメも、アコガレも、落書きのままボヤけ〜て〜、消え〜る〜寸前♪」

桐生「L」

スネーク「O」

銀時「V」

桐生「E、ラブリー」

桐生&スネーク&銀時「「チノちゃんツ!!」」

宗谷「やめて……本当にやめて……w」

メテオ「じ、地味に来るから……w」

桐生「GoGo!Ready Go…」

スネーク「Ready Go…」

銀時「チノちやああああああああん!!」

全員『wwwwwwwwwwwwwwwwwwww』

《合いの手侍の絶叫に一同抱腹絶倒》

チノ『コレガイイノ?』『コレデイイノ?』ふてくされてる鏡の前で…何度も、問い掛けた♪』

時雨「いい、いい歌…普通にいい歌なんだけど…w」

チノ「泣ーきーたーいー日も〜♪」

スネーク「ひゅー♪」

チノ「くーじーけーそーうーなー日も〜♪」

銀時「フー♪」

チノ「乗り越え〜よう♪」

桐生&スネーク&銀時「あーきーらーめーず〜♪」「立ち上がって応援団の如く左

右前後に振って

巧「合いの手wwwwww」

士道「返ってあの子歌を邪魔してんだろwww」

チノ「希望ひかりを浴びなきや!夢と言うツボミは開くかないから♪」

桐生&スネーク&銀時「二ヨツシヤ!もう一丁行くぞ!!」

チノ「Are you Ready Go!」

スネーク「ひゅー♪」

チノ「走り出そう!」

銀時「フー♪」

チノ「取り急ぎ」

チノ&桐生「さあスタート（おおおおおお!!）」

ジント「合いの手ウルセエwww」

エリナ「あの子もあの子で歌い辛いのかしらw」

チノ「押して〜みよ〜う♪わた〜しは〜…」

桐生&スネーク&銀時「「KO・N・NA・Nじゃあ!!」」

チノ「ないはず〜♪」

巧「そこ合いの手が言うんかい！www」

メテオ「おい肝心な所www」

桐生&スネーク&銀時「「ラーラーララ、ラーラーラララ、ラーラーラララ、ラーラーララ、ラーラー」

ラララーラー♪」

ジント「ラーラーうるせえよwww」

桐生&スネーク&銀時「「ラーラーララ、ラーラララララ、ラーラーララ……あゝ
!もう一丁行くぞ!!」」

桐生「虎!」

スネーク「火!」

銀時「人造!」

桐生「繊維!」

スネーク「海女!」

銀時「振動!」

桐生&スネーク&銀時「「K O ・ N ・ N A ・ N しや、なくい♪」」

全員『最後の最後まで合いの手がうるさいwww』

チノ「皆ありがとぅう！とつても楽しく歌えたよぅ♪」

桐生&スネーク&銀時「二」うおおおおおおお!!チノちやああああああん

!!
二」

(ブアーン…) 全員、アウトー!

メテオ「いや、ふざけん……なあ!」(バシーン!)

巧「チノちゃんの歌を普通に聞かせろよ!」(バシーン!)

宗谷「最後の最後まで何なのあの人……たかい!」(バシーン!)

王花「やりたい放題……でしょ!」(バシーン!)

時雨「終始危ない人達にしか……見えない!」(バシーン!)

エリナ「くっ……!つ、次よ次!」

LSと書かれたDVDの映像…。

『龍が如く5』より…。

王花 「またあ!?!」

宗谷 「もう勘弁してくれよ…」

『loneliness loop』

『歌い手：ユニ』

『合いの手：ソル・ドウミナス』

メテオ 「……………は?」

~~~~~♪

ユニ「華麗に決めて見せるわ！」（マイクを片手に

ソル（ソルヒート）「いよ！ユニちゃん！」（パチパチパチパチ！

メテオ「……………」（ぽかーん…

巧「メテオ？メテオ、おい」

士道「……ダメだ、放心状態になってやがる…」

歌スタート！

ユニ「愛しきの！」

ソル「フツフー」

ユニ「傷口は」

ソル「フツフー」

ユニ「羽を失くした鳥のよう……ねえどうして?」

ソル「フツフー♪」

ユニ「ねえ、貴方は?」

ソル「フツフー♪」

ユニ「そんなに悲しく、笑うの?」

宗谷「ソル君……一体何処で仕掛けて来るんだ……?」

ユニ「何処を繕えば……」

ソル「プシャ〜♪」(○なっしーぼく

ジント「ぬぐつ…w」

士道「くつ…w」

《不意打ちの『プシャ〜♪』》

ユニ「あの子みたいにく、笑えるの？何処を直したら…」

ソル「プシャ〜♪」（ふなっしーっぽく

宗谷「……w」

時雨「……www」

※既に笑いましたが、このままお楽しみください。

ユニ「断ち切れない（ユニちゃ〜ん♪↑ソルの声）孤独と、悲しみのloop! フォトフレームの貴方に、ピントが合うわな〜い♪」

ソル「loneliness loop!!」（めっちゃ発音よく

《ちよくちよくうるさく入るソルの合いの手(笑)》

王花&士道&エリナ「「wwwwwwww」」

ユニ「愛しさの!(フッファー♪)傷口は!(フッファー♪)羽を失くした鳥のよう…」

ユニ「ねえどうして?(フッファー♪)ねえ貴方は?(フッファー♪)そんなに悲しく、笑うの?♪」

巧「ちよくちよく入って来るなソルwwww」

宗谷「四代目達よりもノリが良さそうwwww」

メテオ「……………」(ぼーぜん…)

ユニ「……………/ /」(じっ…)

ソル「……………」

《突然向かい合うユニとソルの二人》



(デデーン!) 宗谷・巧・王花・時雨・土道・エリナ・ジント、アウトー!

宗谷「待つて待つて!?最後のなに!」(バシーン!)

巧「今俺達何を見せられたの!」(バシーン!)

王花「キスしましたよね!?!今あの二人キスをしましたよね!」(バシーン!)

時雨「と言うかメテオなんで発狂したの!」(バシーン!)

土道「合いの手で笑わせに来たと思ったら最後の!」(バシーン!)

エリナ「え?え?...ええ!」(バシーン!)

ジント「何だったんだ今の!」(バシーン!)

メテオ「ソルうううううう!?!ダメだ!ダメだぞそんな公の場での不埒な行為はあ  
!?!兄ちゃん怒るよおおおおおおお!」

宗谷&巧&時雨「「「「「「「「「「」」」」」」」」」

(ニデーン!) 宗谷・巧・時雨、アウトー!

宗谷「メ・テ・オ w w w w w w」(バシーン!)

巧「このブラコンめ w w w」(バシーン!)

時雨「もう黙って w w w」(バシーン!)

メテオ「ハアー!ハアー!ハアー!……!ソル、これが終わったらじつくりと話合おう  
じゃねえか…!!」

王花&士道「w w w w w w」

(ニデーン!) 王花・士道、アウトー!

王花「ちよ、メテオさん w w w」

士道「ソル、逃げろ!今すぐ逃げろ! w w w」(バシーン!)

2枚目のDVDに問題があつて一悶着あつたものの、遂に…。

士道 「最後のDVDか…」

《最後に残ったのは『シンデレラ』と書かれたDVD》

王花 「もうここまで来たから見ましようよ」

宗谷 「だな、もうここまで来たから見ようぜ？」

巧 「どうせ中身は地獄だろうしさ」

士道 「じゃあ、行くぞ？」

---

”シンデレラ”と書かれたDVDの映像。

『龍が如く0』より…。

宗谷 「やっぱりか…」

時雨 「好きだね龍が如く…」



《バブル世代を感じさせるアイドルコスチュームを着込んで歌って踊る狂犬兄さんと漆黒の騎士団》

(デブーン!) 全員、アウトー!

バシーン×8

メテオ「いててて……ビックリした……」

巧「つつ……何時の世代の服だよあれ……」

時雨「しかも凄くいい笑顔でやってるよ……」

真島「君に似、合う、ガラスの、靴を探そう♪」

バググダンサーズ『〜♪』(スイ〜スイ)

《狂犬兄さんと漆黒の騎士団と同じ服装を着込み、ローラーズスケート靴で爽快に現れるバググダンサーのシンシア(白宇宙)、ライラ(白宇宙)、ヤエ(白宇宙)、ステラ(白

## 宇宙》

カズマ「二人でSTEP&GO!」(クルクルクル!

カズマ「いつまでも♪」(スタツ!キラキラ♪:

全員『wwwwwwwwwwwwwwwwww』

《スケート選手の如く大回転して着地し、目を輝かせてポーズを決めるカズマ》

※既に笑いましたが、このままお楽しみください。

真島「深夜12時を!」(バク転!

ライラ&ヤエ『!』(バク転!

真島「過ぎたつて♪」(スタツ!ノンノン♪

《バク転を華麗に決めて歌う狂犬兄さんとバググダンサーのライラとヤエ》

カズマ「君はボ…」

シンシア「……………」(キラッ!)

カズマ「クノ」

ステラ「……………」(キラッ!)

真島「愛……」

ライラ「……………」(ペア!)

真島「しい」

ヤエ「……………」(ペア!)

全員『wwwwwwwwwwwwwwwwww』

《ちよくちよく前に出て来てポーズを決めて煌めくバツグダンサー達(笑)》

カズマ「24時間!」

真島&カズマ「シンデレラ〜♪」

真島&ライラ&シンシア「「HEY!」」

カズマ&ヤエ&ステラ 「「「HEY！」」」

真島&カズマ&ライラ&ヤエ&シンシア&ステラ 「「「「HEY!!」」」」 (ドヤア！)

《フィニッシュで全員ポーズを決めてドヤ顔》

(デーン！) 全員、アウトー！

全員 『もう歌は懲り懲りです!!』 (バシーン！)

まさかの歌地獄でもがき苦しむ一同、しかし地獄はさらに加速して行く…。

《次回予告》

まさかの引き出しネタに散々苦しんだ一同だが、彼らに休む暇はない！

全ての引き出しネタを終えた一同の前に次々と笑いの刺客が現れる!  
そして迎える……” 昼食” の時間ですらも一同を苦しめ続ける!!

………絶対に笑ってはいけない教祖24時! 《研修室&昼食編》へと続く………